

# 令和元年度診療年報

NHO 長崎川棚医療センター

# 巻頭言

---

この診療年報を読むと、令和元年度に長崎川棚医療センターで働く私たちがどんな仕事をしたのかがわかります。自分が働く診療科や部門のみならず、他の部門で働く人たちの働きぶりを知ることができます。小さな病院でも多くの仕事をしていることが伝わることでしょう。

仕事の内容をわかりやすく伝えるために、患者数など数字の記載が多くなりますが、その数字をあげるための苦労や、数字に表せない部分の苦労がしのばれるのは私だけではないと思います。

2019 年末から新型コロナウイルス感染の流行が始まりました。当院でも「発熱・感冒様症状外来」を設置するなどの取り組みを始めています。また、災害時に対応する取り組みも始めています。

診療年報は当院での臨床と研究を進める指標となるものです。時代の流れに対応した新しい当院の医療体制を構築する上でもこの診療年報が役立つことを願います。

2020 年 7 月

長崎川棚医療センター 臨床研究部長

福留隆泰

# 診療部

---

# 診療部－消化器内科－

## ■ 診療科の特色

当院は九州地区の神経・筋疾患基幹医療施設ですが、地域の総合病院としての役割も担っており、当科においては消化管疾患、肝胆膵疾患についても積極的に取り組んでいます。

診療科の特色として、検査、手技が多く、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡、内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的逆向性胆管膵管造影、内視鏡的総胆管結石除去術、内視鏡的胆管ステント挿入術、内視鏡的観察下胃瘻造設術などが挙げられます。

## ■ 入院診療実績

疾患名	患者数	
	平成 31 年度	平成 30 年度
食道癌、胃癌、大腸癌	50	29
肝癌	4	4
胆管癌	4	5
膵癌	5	9
肝障害	6	13
大腸ポリープ	92	77
消化管出血	14	25
良性胆道疾患（胆石等）	23	24
胃、腸疾患	52	78
その他	103	114
消化器疾患全体	353	378

## ■ 検査、手技実績

検査、手技名	患者数	
	平成 31 年度	平成 30 年度
上部消化管内視鏡	530	614
大腸内視鏡	445	479
内視鏡的逆向性胆管膵管造影	27	24
内視鏡的消化管止血術	9	10
内視鏡的食道静脈瘤結紮術	1	0
胃瘻造設術（胃瘻交換）	12(22)	24(26)
内視鏡的大腸ポリープ切除術	95	77
内視鏡的胆管ステント挿入術	16	9
内視鏡的総胆管結石除去術	5	13
内視鏡的イレウス管挿入	0	3
内視鏡的大腸ステント留置術	1	0
内視鏡的異物除去	2	2

## ■ 将来の展望

現在、当院の消化器内科医は2名で消化器疾患の診療、検査に携わっている状態ですが、地域の要求に対し満足いただける医療を目指して努力しております。

今後もさらなる地域医療への貢献を目標といたします。

# 診療部－脳神経内科－

---

## ■ 診療科の特色

当院の脳神経内科は、西九州脳神経センターとしての役割を担い、脳卒中、めまい、頭痛、認知症、てんかんといった一般的な疾患から、パーキンソン病を始めとする神経変性疾患、多発性硬化症、重症筋無力症、ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、多発筋炎、髄膜・脳炎、ジストニアなど様々な神経・筋疾患に対する専門的診断治療を行っています。

外来では、川棚町内を始め、佐世保、有田・伊万里、波佐見、時に長崎市内、島原や、鹿児島県や熊本県など遠方からもご紹介いただきます。初診時には、問診・神経学的診察を行った上で、MRI など画像診断、電気生理学的検査、RI 検査、筋生検などを駆使して診断し、急性期治療、慢性期の管理などを行っています。また、ジストニアや痙性斜頸、眼瞼痙攣に対しては、ボトックス療法を積極的に行っています。

入院では、①脳梗塞急性期治療、②重症筋無力症や多発性硬化症など免疫性神経疾患に対するステロイドパルス療法、大量γグロブリン療法、血漿交換療法などの積極的な免疫治療、③パーキンソン病などの進行性変性疾患に対する、薬剤調整やリハビリテーション、④進行期神経難病患者の在宅療養支援やレスパイト入院、などを行っています。在宅での人工呼吸器や NPPV 治療も行っており、導入時の各調整や指導、その後の管理や定期的なレスパイト入院など、無理なく在宅ケアが継続できるようサポートしています。そのような患者さんに対しては、災害時のご家族の対応方法、当院への避難入院や日ごろの指導についても、定期的なカンファレンスで検討した上で、受け入れ体制を整えています。

病棟カンファレンスや脳卒中カンファレンスなども行い、他職種からなるチームで診療を行っています。特に進行期神経難病患者の在宅支援に関しては、病棟看護師、MSW、リハビリスタッフはもちろん、在宅での訪問看護師、ケアマネージャー、ホームヘルパーなどを含めたチーム医療が必要であり、退院前カンファレンスを開催するなど密な連携を心がけています。

パーキンソン病に対しては、長崎県で唯一、脳神経外科と共同して脳深部刺激療法を行っており、術前評価、植え込み手術からその後の管理まで行っています。

研究に関しては、当院臨床研究部とともに、臨床研究に取り組んでいます。教育に関しては、エキスパートナース研修、神経筋難病看護師研修を年に 1 回実施し、長崎県や九州地区における専門スタッフの育成を行っています。

■入院診療実績

疾患	症例数(人)
脳血管障害	50
神経変性疾患	315
(うちパーキンソン病)	(152)
(うち筋萎縮性側索硬化症)	(70)
脱髄・炎症性疾患	25
ニューロパチー	50
ミオパチー	31
神経筋接合部疾患	2
脳炎・髄膜炎	9
てんかん	6
その他	35
小計	523
一般内科疾患	187
合計	710

・主要な検査、治療

検査・治療	件数
筋電図	88
脳波	56
筋生検	2
ボトックス療法	73
血漿交換療法	3
DBS(新規)	32 (2)

## ■研修・教育

カンファランス	参加職種	人数	開催
脳神経内科カンファレンス	医師	5	1回/週
脳神経内科・脳外科 合同抄読会	医師	7	1回/週
脳卒中カンファレンス	医師、看護師、リハ療法士、栄養士、MSW	5~10	1回/週
病棟カンファレンス	医師、看護師、薬剤師、 リハ療法士、栄養士、MSW	15	1回/週
退院前カンファレンス	患者・家族、在宅療養支援関係者、病棟スタッフ	10	適宜

## ・治験関連

治験	0件
受託研究	5件

## ■将来への展望

社会や地域の高齢化に伴い、一人の患者を取り巻く基礎疾患や社会的背景も複雑化し、総合的な判断が必要となります。パーキンソン病や認知症などの慢性疾患は増加傾向となり、また、これまでは比較的若い世代に後発していた免疫性神経疾患の高齢発症も問題となっています。当科では、様々な神経疾患を中心とした全人的医療を目指し、幅広い診療・教育活動を続けていきたいと考えています。

## ■研究実績

### ・競争的研究資金の獲得

(1) 厚生労働科学研究費 有 スモンに関する調査研究班 福留 隆泰 厚生労働省行政推進調査事業補助金（難治性疾患政策研究）

(2) 厚生労働科学研究費 有 神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者 QOL の検証 松尾 秀徳 厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

・原著論文

Eguchi T, Tezuka T, Fukudome T, Watanabe Y, Sagara H, Yamanashi Y. Overexpression of Dok-7 in skeletal muscle enhances neuromuscular transmission with structural alterations of neuromuscular junctions: Implications in robustness of neuromuscular transmission. *Biochem Biophys Res Commun* 2019; 523:214–219

Mitsutake, A., Matsumo, H., Hatano, K., Higuchi, O., Nakane, S. and Hashida, H. A case of Parkinson's disease following autoimmune autonomic ganglionopathy. *Neurology and Clinical Neuroscience*: 2019; 7: 212-214

Nakane, S., Mukaino, A., Higuchi, O., Yasuhiro, M., Takamatsu, K., Yamakawa, M., Watari, M., Tawara, N., Nakahara, K. I., Kawakami, A., Matsuo, H. and Ando, Y. A comprehensive analysis of the clinical characteristics and laboratory features in 179 patients with autoimmune autonomic ganglionopathy. *Journal of Autoimmunity* 2020; 108:8

Sugawara, M., Obara, K., Nakanishi, S., Higuchi, O. and Nakane, S. Anti-ganglionic acetylcholine receptor antibody causes prolonged megacolon in a patient with amyotrophic lateral sclerosis. *Neurology and Clinical Neuroscience* 2019; 7: 139-140

Nakane, S., Umeda, M., Kawashiri, S., Mukaino, A., Ichinose, K., Higuchi, O., Maeda, Y., Nakamura, H., Matsuo, H. and Kawakami, A. Detecting gastrointestinal manifestations in patients with systemic sclerosis using anti-gAChR antibodies. *Arthritis Research & Therapy* 2020; 22:10

Nakahara, K., Nakane, S., Kitajima, M., Masuda-Narita, T., Matsuo, H. and Ando, Y. Diagnostic accuracy of MRI parameters in pure akinesia with gait freezing. *Journal of Neurology* 2020;267:752-759

Imamura, M., Mukaino, A., Takamatsu, K., Tsuboi, H., Higuchi, O., Nakamura, H., Abe, S., Ando, Y., Matsuo, H., Nakamura, T., Sumida, T., Kawakami, A. and Nakane, S. Ganglionic Acetylcholine Receptor Antibodies and Autonomic Dysfunction in Autoimmune Rheumatic Diseases. *International journal of molecular sciences* 2020:21

Sho Aoki, Kazuaki Nagashima, Minori Furuta, Kouki Makioka, Yukio Fujita, Kazuma Saito, Tomoyuki Kashima, Nozomi Nakajima, Hayato Ikota, Osamu Higuchi, Yoshio Ikeda. A Case of Anti-LRP4 Antibody-associated Myasthenia Gravis with a Rare Complication of Thymoma Successfully Treated by Thymectomy. *Internal medicine (Tokyo, Japan)* 2020

Serina Koto, Masataka Umeda, Hiroaki Kawano, Yushiro Endo, Toshimasa Shimizu, Tomohiro Koga, Kunihiro Ichinose, Hideki Nakamura, Akihiro Mukaino, Osamu Higuchi, Shunya Nakane, Atsushi Kawakami. Behçet's Disease with Severe Autonomic Disorders Developing after Herpes Zoster. *Internal medicine (Tokyo, Japan)* 2020;

Shunya Nakane, Osamu Higuchi, Koutaro Takamatsu, Akihiro Mukaino, Yasuhiro Maeda, Hidenori Matsuo, Yukio Ando. Anti-LRP4 autoantibodies in myasthenia gravis: Where are we and where are we going? *Clinical Experimental and Neuroimmunology* 2019

・学会

- (1) 開口障害を主訴とした破傷風の1例 福留隆泰 第325回日本内科学会九州地方会
- (2) パーキンソン病の振戦に対してSTN-DBSのマルチプログラミングが有効だった一例  
福留隆泰 第226回日本神経学会九州地方会
- (3) ルビプロストンが有効であった先天性ミオトニーの一例 福留隆泰 日本筋学会第5回学術集会
- (4) 肢帯型筋ジストロフィー(LGMD2N)の一家系 富田祐輝 第227回日本神経学会九州地方会
- (5) 当院におけるALSに対するラジカット治療症例の検討 富田祐輝 第134回県北神経根懇話会

(文責：脳神経内科 成田智子)

# 診療部－循環器内科－

---

## 1. 診療科の特色/概要・基本診療指針と展望

循環器科1人体制となり、急性心筋梗塞などの救急疾患には対応できなくなっていますが、高齢化が進むなかで地域住民の循環器疾患有病率は確実に上昇してきており、今後は他の疾患領域で行われる検査・治療・手術を安全かつ円滑に行うことにも重点を置いた診療を展開していきます。

## 2. 入院診療実績

入院総数 226人

平均在院日数 21.7日

冠動脈造影 59件

冠動脈形成術 5件

人工ペースメーカー植込 9件

## 3. 研修・教育

### 研修・資格

日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

日本循環器学会認定専門医 1名

日本内科学会総合内科専門医 1名

### 教育・講演会

院内スタッフ対象学習研修会(AED、EKG、心カテなど) 随時開催

## 4. 治験・共同研究

### 分担研究

・EXCEED-J

『簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効果的なハイリスク患者抽出方法の確立』 Establishment of Method to Extra a High Risk Population Employing Novel Biomarkers to Predict Cardiovascular Events in Japan

研究責任者:NHO京都医療センター 臨床研究センター 和田 啓道

・PREHOSP-CHF

『慢性心不全患者の新しい再入院リスク評価法の確立 ～新規バイオマーカーと心不全再入院イベントの関連～』 Development of Novel Biomarkers to Predeict REHOSPintalization in Chronin Heart Failure

研究責任者:NHO京都医療センター 循環器内科 井口守文

治験 : なし

#### 5. 学会・論文など

・2019年5月18日 第325回日本内科学会九州地方会

冠動脈CTにて著明なシャント血管を認めた2方向に分かれた冠動脈肺動脈瘻の1例

・2020年2月25日 第8回長崎県央不整脈デバイス治療研究会

当院で経験した心アミロイドーシスの症例

# 診療部－代謝内科－

## ■ 診療科の特色

代謝内科では、糖尿病、バセドウ病、橋本病、下垂体や副腎などの各種ホルモン過剰症および欠乏症の他、高脂血症、肥満・やせなどの内分泌代謝性疾患に対する診療を行っている。

内分泌疾患については、県内でも常勤の内分泌専門医がいる病院は非常に少ないため、地域の先生方から多くの紹介をいただき、専門的な診断や治療を行い、地域における内分泌専門医療機関として役割を果たしていくことを目指している。また、糖尿病診療においてはコメディカルを加えたチーム医療体制の構築を図り、糖尿病合併症の重症化予防に努めている。

外来では、糖尿病患者の診療が中心であるが、甲状腺疾患の紹介患者数も増加しており、バセドウ病・橋本病・甲状腺腫瘍などの内分泌疾患患者の診療も行っている。

糖尿病患者に対してはインスリン強化療法を積極的に導入し、病態を考慮した治療を行っている。また、インスリン抵抗性の評価、超音波断層法を用いた頸動脈病変の評価、血圧脈波計を用いた非観血的下肢血行動態の評価、神経伝道速度の定量的評価などを併用して、糖尿病の代謝動態および合併症状態の総合的把握にあたっている。糖尿病患者教育に関しては、外来ならびに病棟での糖尿病教室の運営、町主催の講演会などを通じて合併症予防の啓蒙活動に力を入れている。

教育入院については、2～3週間のクリティカルパスを作成して適切な教育入院を目指している。教育入院後は積極的に逆紹介し、当院外来では血糖コントロール困難例・重症例を中心に糖尿病患者の診療を行っている。

糖尿病をはじめとする生活習慣病は年々増加傾向にあるため、糖尿病教育には特に重点をおいており、糖尿病療養指導士(看護師・栄養士)とチームを組んで集団指導(糖尿病教室)、個人指導、糖尿病パンフレットなどによる指導などを行っている。外来にて糖尿病性腎症に対する透析予防管理を開始し、医師・専門看護師・管理栄養士による腎症進展予防のための療養指導を行っている。また、積極的に地域医療連携を進め、合併症予防を推進していくために、糖尿病疾病管理システムの運用を行っている。

## ■ 入院診療実績

・2019 年度入院患者数：108 名

### ・入院患者主要疾患

疾患名	ICD-10コード	患者数	死亡数
1) 2型糖尿病	E11*	25	0
2) 急性肺炎	J189	12	0
3) 1型糖尿病	E10*	9	0
4) 誤嚥性肺炎	J690	9	0
5) うっ血性心不全	I500	5	0
6) 甲状腺腫瘍	D440	5	0

7) 急性胃腸炎	A099	4	0
8) 急性腎盂腎炎	N10	4	0
9) 良性発作性頭位めまい症	H811	4	0
10) 急性腎不全	N179	3	0

・主要な検査

甲状腺穿刺吸引細胞診検査件数：7件

■研修・教育

・カンファランス

病棟カンファランス（週1回）

・糖尿病教室（週1回）

・教育・講習

- 1) <講義> 糖尿病および低血糖の病態と治療. 木村博典、第9期救急救命士講習、大村・消防学校、2019.7.6
- 2) <講義> 糖尿病と運動療法. 木村博典、e-エクササイズ講師養成講座、長崎、2019.8.4
- 3) <講義> 栄養管理の重要性. 木村博典、福岡県立女子大学講演会、福岡、2019.12.2
- 4) <講義> 糖尿病および低血糖の病態と治療. 木村博典、第10期救急救命士講習、大村、2019.12.3

■将来への展望

糖尿病診療については、チーム医療を強化し、教育入院の質の向上と入院期間の短縮化を図っていききたい。また、外来での透析予防管理の件数増加やフットケアなどの療養指導の充実、外来インスリン導入のための体制づくりを推進していききたい。また、糖尿病性腎症をはじめとする糖尿病の合併症の早期発見と進展防止の取り組みを強化していききたい。

内分泌診療については、地域の専門医療機関として、内分泌疾患の適切な診断と治療を提供できるよう地域の医療機関との連携を強化していききたい。

## ■研究実績

### ・競争的研究資金の獲得

なし

### ・原著論文

なし

### ・学会発表

なし

### ・講演

- 1) <講演>「糖尿病患者さんを受け入れる薬局へのアドバイス」. 木村博典、大村・東彼薬剤師会薬業連携勉強会、大村、2019.10.2

### ・座長

- 1) <座長> 生涯教育講座「糖尿病性腎症の治療戦略～最近の話題を含めて～」(長崎大学病院腎臓内科 西野智哉教授) 東彼杵郡医師会学術講演会「火曜会」、川棚、2019.9.10
- 2) <座長> セッション：Humann-Brige 活用事例 (講演発表 4 題) 電子カルテユーザー会「利用の達人」運用事例発表会、東京、2019.10.5
- 3) <座長> セッション：医療情報システム 2 (ポスター発表 6 題) 第 73 回国立病院総合医学会、名古屋、2019.11.9
- 4) <座長> 特別講演「埼玉県における糖尿病性腎症重症化予防の取り組みと腎機能に応じた DPP-4 阻害薬の使い方」(埼玉医科大学名誉教授 片山茂裕先生)、第 15 回県央糖尿病腎症セミナー、大村、2019.11.22
- 5) <座長> 基調講演「データ利活用を促進するには何が必要だろうか？」(京都大学医療情報部 黒田知宏教授)、電子カルテユーザー会「利用の達人」データ利活用フェスティバル、東京、2020.2.1
- 6) <座長> 一般口演：業務の質と効率化 (講演発表 5 題)、第 20 回日本医療マネジメント学会長崎支部学術集会、長崎、2020.2.16

# 診療部－放射線科－

---

放射線科医長 中村 悟 令和2年4月24日

## [1]放射線科の特色

放射線科は近年その重要度を増しているCT、MRI、RIなどの画像診断を主な業務とし、血管造影や消化管造影の一部も施行しています。機器自体は比較的新しく高機能で、最新鋭の設備と言えます。電子カルテやレポートシステムも完備で、理想的なフィルムレス環境です。2名の常勤放射線科医(診断専門医)および2名の大学からの非常勤医師により、ほぼ100%を読影(診断)しています。

## [2]CT、MRI、RIの検査件数の推移

平成30年度のCTは3,730(←5,193)件とかなり減少した。

MRIも2,674(←3,083)件と減少した。

CT、MRIともに急患などの依頼に対しては対応し易くなっている。

RIは163(←181)件と減少した。

年度前期の各科の常勤医師数の減少、後期のコロナ感染対策が大きく影響していると思われる。

## [3]院外紹介患者数の推移(連携室データ)(MRI、CT、RI、US、MMGの合計)

平成27年度 1058件

平成28年度 1108件

平成29年度 1113件

平成30年度 1041件

令和1年度 1024件

令和1年度は前年度に比しやや減少したものの1000件を超えており、十分な件数を確保している。

院外の件数が多い場合には院内外来患者に待ち時間増加などのサービス低下を招いていたが、院内からの依頼が減少し改善傾向となっている。地域医療連携室のおかげで、予約の混乱は最小に抑えられている。当日紹介に対してもほぼ対応できている。

総合情報管理室の協力もありCD-Rでの画像出力は多くの施設で利用していただいている。

今後も各方面と協力して迅速丁寧な対応を続けたい。

#### [4]放射線科の現状と展望について

CT、MRI、RIともに検査件数が減少した。院外からの紹介患者数の減少はわずかだった。CT、MRI、RI検査の読影80%以上という画像管理加算2の維持は当分可能と思われる。CTやMRIの全3D処理や再構成は全て放射線技師が作成しており、放射線科医の負担軽減に役立っている。新CTは検査時間が短くさばけるが、空き時間が出てきています。

大型医療機器の更新については、CR装置(H21.8)、透視(H17.11)などが懸案事項です。

特に透視装置は操作室のモニターが故障で使えず、透視室内のモニターを使って行っています。今年秋の共同入札予定と聞いていますが、一日でも早い新しい装置の導入が望まれます。

外来や連携室などの病院各部門とさらに協力しながら、病院の活性化に向けて頑張りたいと思います。

#### [5]発表

1) 中村 悟 1)、福田 実 2) ASCO breakthrough, Bangkok, Thai. 2019.10.11.

CEA (Carcinoembryonic antigen) is a candidate for useful prognostic marker in non-mucinous pneumonic adenocarcinoma (P-ADC) of the lung.

2) 中村 悟 1) RAP2019, Belgrade, Serbia. 2019.9.17.

Variation of oblique fissure of the right lung on sagittal Computed Tomography.

1) Kawatana Medical Center, Nagasaki, Japan.

2) Respiratory Internal Medicine, Nagasaki University, Nagasaki, Japan.

# 診療部－脳神経外科－

---

(1) 入院症例数 168 名

(2) 手術症例数 48 例

脳腫瘍摘出 1

## 脳血管疾患

開頭血腫除去 3

## 外傷

急性硬膜下血腫 1

慢性硬膜下血腫 14

## 機能外科手術

パーキンソン病・本態性振戦など

頭蓋内電極植込 1

脳刺激装置植込 1

脳刺激装置交換 18

微小血管減圧術 1

てんかん

焦点切除 1

脳梁離断 1

脳刺激装置植込 1

迷走神経刺激装置植込 4

## その他

脳室ドレナージ 1

(3) 剖検数 0

## I. 論文業績

- 1) EEG before and after total corpus callosotomy for pharmacoresistant infantile spasms: Fast oscillation and slow-wave connectivity in hypsarrhythmia. S Baba, ..., Keisuke Toda, et al. Epilepsia 60: 1849-60, 2019

## II. 学会発表

- (ア)長時間ビデオ脳波モニタリングと神経センターのこれから. 戸田啓介. 東彼杵郡医師会火曜会 生涯教育講座(東彼杵郡) 2019年3月12日
- (イ)脳梁離断後に前頭葉に棘波が局在化した1例. 戸田啓介, 野田満. 第71回佐世保脳神経外科医会(佐世保市) 2019年4月19日
- (ウ)長崎川棚医療センターにおける長時間ビデオ脳波モニタリング～導入後約1年を振り返って～. 戸田啓介, 野田満. 第134回県北神経懇話会(佐世保市) 2019年6月18日
- (エ)当院におけるDBS治療の取り組みについて. 野田満, 戸田啓介. 第72回佐世保脳神経外科医会(川棚町) 2019年6月25日
- (オ) 専門医が行うてんかんの地域診療. 戸田啓介. 第3回奄美てんかんセミナー(奄美市) 2019年6月29日
- (カ)難治性てんかんに対する脳梁離断術. 戸田啓介. Epilepsy Network Conference(広島市) 2019年7月24日
- (キ) 長崎川棚医療センターにおける長時間ビデオ脳波モニタリング～導入後1年を振り返る～. 戸田啓介, 野田満. 第27回九州・山口機能神経外科セミナー(福岡県糟屋郡久山町) 2019年8月24日
- (ク)大人のてんかん: てんかんと共に生きる貴方へ. 「てんかん」患者さんの笑顔のために. 戸田啓介. 佐賀県市民公開講座(佐賀市) 2019年9月29日
- (ケ) 側頭葉てんかん術後における抗てんかん薬投薬状況の変化. 戸田啓介, 小野智憲, 馬場史郎, 馬場啓至. 第78回日本脳神経外科学会学術総会(大阪市) 2019年10月11日
- (コ)小児てんかん性脳症の外科治療～脳梁離断の観点より. シンポジウム14 小児てんかん性脳症に対する外科治療一対象、手術時期、発作予後、発達予後. 戸田啓介, 馬場啓至, 小野智憲, 馬場史郎, 本田涼子, 渡邊嘉章. 第53回日本てんかん学会学術集会(神戸市) 2019年11月1日
- (サ)てんかんの診断と治療. 戸田啓介. 佐賀・長崎地区国立病院薬剤師会 薬学研究会(東彼杵町) 2019年12月7日
- (シ)当院におけるDBS治療の現状. 野田満, 戸田啓介. 第39回長崎脳神経外科研究会(長崎市) 2019年12月14日

### III. その他

- 1) 全国てんかんセンター協議会総会長崎大会 2019 大会長（長崎市）2019年2月23-24日

# 診療部－外科－

## 1.診療科の特色／概要・基本診療指針

当科では鏡視下手術(腹腔鏡、胸腔鏡)・小切開手術を主体にした低侵襲手術、高齢者・病弱者に対する十分な術前管理に基づいた安全性の高い手術を基本とします。領域は甲状腺・乳線・肺・消化管(胃、小腸、大腸、直腸)・肝臓・胆嚢・膵臓のほか、下肢静脈瘤、難治性神経疾患に対する喉頭気管分離術など幅広く行うことを方針としています。癌腫の診療には、各臓器別に診療ガイドラインからエビデンスに基づいた治療を選択するようにしています。また、化学療法や癌緩和医療など、手術以外の分野の診療も積極的に行っています。

## 2.入院診療実績

令和元年度には143名入院され、外科・呼吸器外科で78症例(全身麻酔48例、腰椎麻酔6例、静脈麻酔2例)の手術が行われました。

### ●臓器別手術症例数

	全身麻酔	腰椎麻酔	静脈麻酔
小腸	5	1	---
肝臓	---	---	---
結腸、直腸	8	4	---
胆嚢、総胆管	18	---	---
ヘルニア	11	---	2
呼吸器	4	---	---
その他	2	1	---

術式分布  
腹腔鏡下手術 16  
開腹手術 2

### 3.研修・教育

入院患者さんの栄養管理を目的とした研修プロジェクトである TNT 研修会に積極的に参加し、ライセンスの習得を行っています。また、外科的疾患に対する知識を深めるため教育集会などを病棟中心に定期的を開催しています。

### 4.学会・論文

柿胃石嵌頓による小腸潰瘍・閉塞の 1 例

内田 史武、西牟田 雅人、寺田 隆介、宮下 光世

長崎医学会雑誌 94：1号 58-62

閉塞性 S 状結腸癌の口側に、膀胱筋層に達する魚骨穿孔と膿瘍形成を合併した 1 例

内田 史武、寺田 隆介、宮下 光世

長崎医学会雑誌 2019-01-01

第 74 回日本消化器外科学会総会

両側閉鎖孔ヘルニア嵌頓に upside down stomach を伴う複合型食道裂孔ヘルニアを合併した 1 例

[演者]内田 史武：1

[共同演者]寺田 隆介：1、宮下 光世：1、藤岡 ひかる：1

1：長崎川棚医療センター外科

# 診療部－整形外科－

---

令和元年度は藤本医師 1 名の診療体制であった。

長崎大学病院から月・水曜日に各 1 名の応援体制であった。

手術は 73 例で、大腿骨頸部骨折が主であった。

入院 1 日平均患者数は 14.2 人と、昨年度の 15.4 人よりわずかに減少していた。

外来 1 日平均患者数は 19.0 人と、昨年度の 21.7 人より減少していた。

また、大きな医療事故はなかった。

## ■ 令和元年度整形外科患者数

	A	B	C
	患者数 (延べ数)	年度日数	$A \div B$
入院	5,211	366	14.2
外来	4,560	240	19.0

# 診療部－総合診療内科

---

## ■診療科の特色

当科は2019年6月に新設された診療科です。科のモットーとしては、フットワークを軽く、全体を見渡しながら、現場ニーズに合わせた診療を心がけています。診療科にかかわらず内科全般の診療をおこなっています。特に高齢者人口の増加に伴い、複数疾患を抱える患者さんが増加してきており、このような患者さんの診療、問題解決を得意としています。その他原因のわかっていない発熱、体重減少といった診断の確定していない患者さんへの診療を行っています。また、院内感染対策チームへ参加し、感染症対策への取り組みを行っています。

## ■スタッフ

○常勤2名（2020年1月より常勤2名体制）

○小児科兼任常勤1名

## ■教育、研修

○専門医

日本内科学会 総合内科専門医1名

日本プライマリケア連合学会 家庭医療専門医1名

○認定医

日本内科学会 認定内科医2名

日本医師会 認定産業医1名

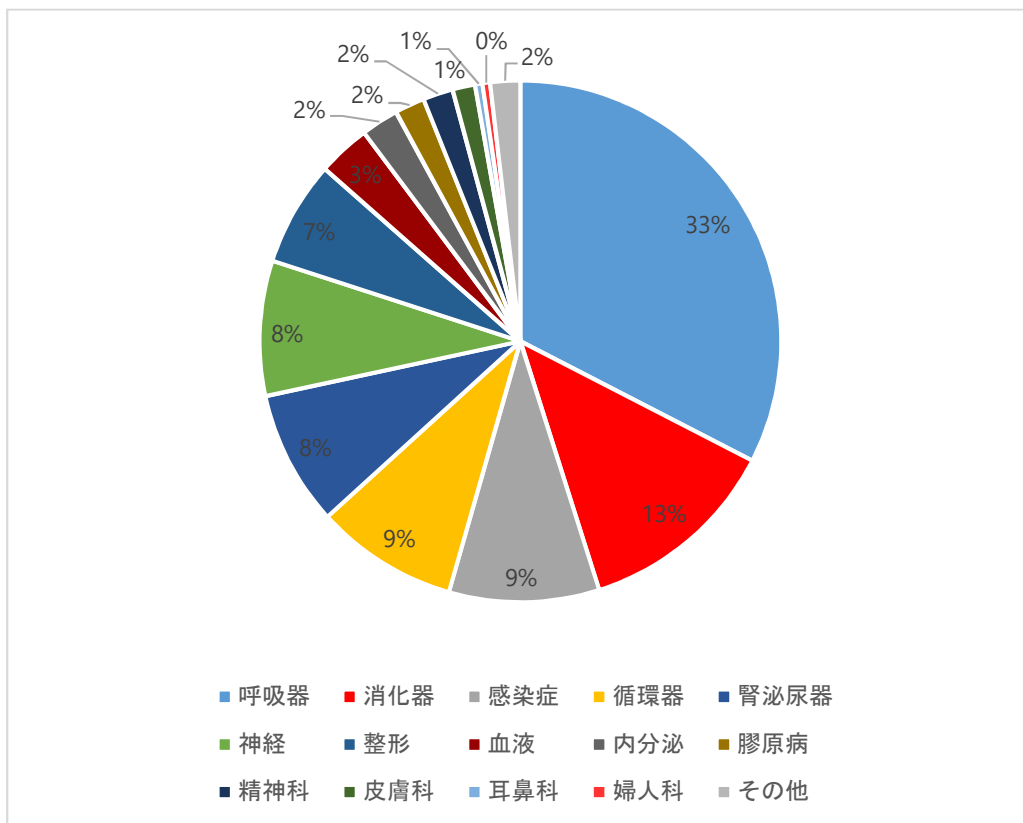
■入院診療実績

○2019 年度入院患者数（月別患者数）

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
13	17	27	22	19	19	19	34	33	25	228

(医事課データ参照)

○2019 年度入院患者の内訳（内訳は%で表示 退院サマリーデータより作成）



■外来診療実績

2019 年度新患患者数（月別患者数）

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
17	27	37	23	31	30	22	43	38	42	310

(医事課データ参照)

地域連携室を介し紹介状を持参される患者さん、当日紹介状を持たずに受診される患者さんの初診外来の役割を担っています。

#### ■ 将来への展望

診療面では、今後も高齢者人口割合の増加に伴い、高齢者の受診、入院増加が見込まれる。入院となった疾患のみならず、背景疾患を考えながら今後のケアの方針（アドバンスケアプランニング）に対して積極的に取り組みたい。また、昨今問題となっているポリファーマシー（薬剤の多剤内服）問題に対しても薬剤部と取り組みを開始する。

教育面では、2020年4月よりレジデント、診療看護師の教育を開始する予定である。

#### ■ 研究実績

○競争的研究資金の獲得

なし

○原著論文

なし

○学会発表

なし

# 診療部－小児科－

---

## ■診療科の特色

小児科では、15歳未満（中学生以下）の患者の診療を行っている。

東彼地区は小児の医療施設が少ないこともあり、地域の小児医療を展開している。

診療医師がひとりであり、入院治療・夜間診療は行っていない。

## ■外来診療実績（2019/4/1～2020/3/31）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小児一般	191	243	370	385	309	363	407	330	323	284	313	265
予防接種	7	21	50	38	45	28	24	95	60	21	24	36
乳児健診	0	0	0	10	10	9	4	4	8	3	8	5

# 診療部－皮膚科

---

## 1. 診療科の特色

当診療科では患者様の皮膚一般の診療を行なっています。近隣の開業医の先生方からのご紹介を中心に重症アトピー性皮膚炎などの湿疹皮膚炎群、コントロール不良の尋常性乾癬患者への外用、内服、光線治療を施行しています。入院治療としまして皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍の手術、蜂窩織炎、带状疱疹等の皮膚感染症に対する治療も施行しています。また、院内では他科入院中の患者様の皮膚真菌症、褥瘡、薬疹、点滴漏れなどの診療依頼がありセーフティネット的な役割を担っています。これからも当科は地域医療、院内診療の円滑化のため尽力する所存です。

## 2. 入院診療実績

入院総数	83 件
平均在院日数	44.3 日(一般病棟：11.5 日)

### 外来光線数

287 件

### 手術件数

外来：56 件

入院：62 件

## 3. 学会発表

日本皮膚科学会 長崎地方会 第 339 回 筋萎縮性側索硬化症発症により掻破刺激なく経過したアトピー性皮膚炎の一例

# 看護部－理念・基本方針－

---

私たちは、“より良く生きる”を支える看護を提供いたします

## 【基本方針】

1. 患者に信頼される安全で安心な看護を提供します
2. 知識・技術・人格を磨き、自律し実践できる看護師を育成します
3. 各医療チームと協働し、患者中心のチーム医療を推進します
4. 看護・教育・研究を通して地域に貢献します
5. 組織の一員として病院経営に参画します

## 【スローガン】

変化に備えて変化を楽しむ

## 【一般目標】

1. 患者の安全と安心を守り、質の高い看護・介護を提供する
2. 患者・家族と看護職者双方が満足できる看護体制の確立
3. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に沿ったケアの提供

## 【行動目標】

1. 看護体制を再検討し、各部署に合った看護体制を確立させる
2. 業務内容を再検討し超過勤務を減少させる
3. 多職種による臨床倫理カンファランスおよび ACP の実践
4. 専門職としての適切な医療安全管理および感染管理の実践
5. 入院時から退院後の生活を見据えた生活指導・退院支援の実践
6. 質の高い看護を提供できる看護師の育成
7. 電子カルテの更新をスムーズに行う
8. 組織の一員として、経営改善への参画

# 看護部－3階病棟－

看護師長 今里 純子

## 1. 病棟の特徴

### 1) 診療科目

外科、整形外科、脳神経外科、循環器内科

### 2) 特徴

3階病棟は外科、整形外科、脳神経外科、循環器内科、総合診療内科の患者を受け入れている。外科では手術、化学療法目的の患者、整形外科では骨折の手術目的の患者、脳神経外科ではくも膜下出血や慢性硬膜下血腫やてんかんなどの手術目的の患者、循環器内科においては、心臓カテーテル検査目的の患者や心不全の患者を多く受け入れ、心不全の患者に対しては、心不全を繰り返すことがないように生活指導や家族指導を行っている。

## 2. 活動内容

### 1) 患者数等（2019年度）（定床 60床）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院患者数	54	66	54	67	70	56	49	54	62	72	63	53	60.0
退院患者数	34	37	33	30	40	41	33	24	39	32	41	34	34.9
死亡数	2	4	1	3	2	1	1	4	2	3	1	0	2.0
平均患者数	24.2	27.5	25.7	26	29.2	26.4	28.3	32.8	31.5	36.6	40.6	34.2	30.2
平均在院日数	16.0	16.3	14.7	12.6	13.4	14.1	17.3	19.5	15.3	18.0	17.1	20.3	16.2
病床利用率	40.4	45.9	42.9	42.4	47.0	43.8	47.1	54.6	52.5	61.0	67.6	57.0	49.8
平均年齢	74.7	71.4	72.5	70.3	70.2	74.7	70.2	73.3	70.5	72.6	73.9	69.3	72.0
看護必要度	26.1	32.7	28.4	35.3	44.0	41.8	44.3	46.5	38.1	37.7	39.9	59.1	39.5
特別室利用率	29.0	31.5	21.8	35.7	35.5	66.4	51.1	42.1	50.4	49.4	54.1	51.1	43.0

## 2) 検査・手術件数等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
手術件数	12	13	8	19	11	11	18	16	23	19	21	19	15.8
心カテ	4	6	6	3	8	4	3	6	4	6	3	3	4.7

## 3) 看護・業務・教育等の取組みについて

看護：多職種での循環器カンファレンスを定着して行った。退院支援や患者・家族指導、および倫理的問題についての検討をおこない、実際の看護ケアに繋げることができた。また、昨年度、皮膚排泄管理認定看護師養成課程を終了した看護師が試験に合格し、今年度より活動を開始した。毎週活動日を設け、スタマケアやスキンケアの充実を図った。

業務：夜勤人員が4人から3人に変更となった。看護体制を固定チームナーシングに変更し、チーム内での協力体制、および教育体制を強化した。情報収集時間の短縮と、受け持ち患者への関わりが充実してきた。

教育：看護管理者ファースト研修 1名                      院内感染対策研修 1名

救急看護エキスパートナース研修 1名              認知症ケア研修 1名

循環器病診療に従事する看護師の研修 1名      災害医療従事者研修 1名

# 看護部－4 階病棟－

看護師長 毛利 由加

## 1. 病棟の特徴

### 1) 診療科目

地域包括ケア病棟

### 2) 特徴

4 階病棟は地域包括ケア病棟として、一般急性期の治療を終え在宅復帰のためのリハビリテーションや居宅サービスの調整また施設入所の待機を目的とした患者の受け入れを行っている。退院支援看護師と共働して退院支援を行い、生活指導や継続した医療処置の指導を行い、患者が安心して自宅へ戻れるよう支援している。また短期滞在手術の対象として鼠径ヘルニア手術患者や看取りを目的とした終末期患者の受け入れも行っている。

## 2. 活動内容

### 1) 患者数等（2019 年度）（定床 55 床）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
転入患者数	43	42	57	50	55	44	40	49	56	39	61	57	49.4
入院患者数	6	1	3	4	4	5	3	6	4	5	3	0	3.7
退院患者数	48	42	52	56	57	49	43	54	61	41	47	60	50.8
死亡数	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0.3
転出患者数	2	2	1	2	0	0	2	0	1	1	3	4	1.5
平均患者数	39.9	36.4	43.7	43.0	38.6	40.8	37.5	38.5	38.4	42.2	47.7	51.9	41.5
平均在院日数	24.2	26.2	23.3	23.6	19.2	23.6	26.2	20.8	19.7	30.8	23.1	26.4	23.9
病床利用率	72.5	66.2	78.2	78.2	70.3	74.1	68.3	70.1	69.7	76.8	86.7	94.4	69.2
在宅復帰率	74.0	90.7	82.4	77.2	78.0	81.3	72.7	86.3	75.5	76.3	83.0	85.0	80.2
平均年齢	75.7	77.4	74.3	80.1	79.8	80.6	78.4	76.6	78.1	77.5	86.7	74.7	77.3
看護必要度	21.9	11.8	13.9	21.8	18.1	30.1	17.0	17.9	28.5	20.0	12.3	18.4	19.3
特別室利用率	45.8	55.4	50.3	19.9	28.2	65.2	77.1	59.1	70.1	55.4	59.7	84.5	55.9

## 2) 検査・手術件数等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
手術件数	4	1	1	0	0	1	2	0	0	2	1	0	1
退院前訪問	1	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0.4
退院後訪問	5	6	7	6	2	3	4	12	6	1	2	0	4.5

## 3) 看護・業務・教育等の取組みについて

看護：看護師長 1 名・副看護師長 2 名・看護師名・業務技術員 4 (3/1 現在) 地域包括ケア病棟

13：1 看護体制。患者が安心して在宅で過ごせるよう、医療処置が必要な患者や認知症患者に対し退院直後訪問を積極的に実施している。年間のべ 55 件自宅または退院施設へ訪問し、患者支援やケアの提供、施設職員への指導・支援を行った。

業務：受け持ち看護師制より固定チーム・受け持ち看護師制経る看護体制の見直しを行った。看護師が担当患者の看護ケアを責任もって提供できるように機能別看護体制によるケア係を廃止した。入浴日廃止のためシャワーストレッチャーを新規購入し、ケアの充実を図った。

教育：実習指導者養成講習会 1 名 認知症高齢者看護エキスパートナース研修 1 名

感染管理エキスパートナース研修 1 名 緩和ケアエキスパートナース研修 1 名

長崎県看護職員認知症対応力向上研修 1 名 災害医療従事者研修 1 名

認定看護管理者教育課程ファーストレベル 1 名

# 看護部－5階病棟－

看護師長 穎川 俊也

## 1. 病棟の特徴

### 1) 診療科目

脳神経内科

### 2) 特徴

神経筋難病の診断のための検査時期から症状が進行していく過程において日常生活の援助や精神的支援を中心に患者・家族に寄り添う看護ができるように務めている。長期にわたる療養生活を強いられる患者に対し少しでも楽しい時間を過ごせるよう季節ごとにレクリエーションを行っている。定期的に合同カンファレンスや脳卒中カンファレンスを行い他職種連携、チーム医療の強化に取り組んでいる。

## 2. 活動内容

### 1) 患者数等（2019年度）（定床 55床）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院患者数	55	57	51	51	64	59	56	51	63	64	61	54	57.2
退院患者数	31	41	35	41	42	37	45	43	52	44	41	47	41.6
死亡数	3	2	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0.8
平均患者数	33.8	35.0	30.8	32.8	35.8	39.9	36.8	31.5	29.9	35.3	40	35.4	34.7
平均在院日数	22.3	21.5	17.5	19.8	18.5	21	19.6	18.1	15.2	19.2	19.3	19.1	19.3
病床利用率	61.5	63.7	56.1	59.7	65.6	72.7	66.9	57.3	54.4	64.2	72.8	64.3	57.1
平均年齢	63.4	63.5	62.2	63.0	62.8	66.1	66.2	64.1	64.7	63.9	73.5	63.7	64.8
看護必要度	26.2	25.6	35.2	30.2	26.9	21.1	23.8	29.6	27.6	27.1	30.2	30.4	27.8
特別室利用率	34.7	69.6	30.8	36.0	38.7	56.9	61.6	47.2	49.5	44.6	35.4	47.3	46.0

## 2) 検査・手術件数等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
長期脳波モニタリング検査	12	12	9	10	17	16	16	20	25	15	4	15	14.3
手術	0	0	1	1	0	1	1	3	2	0	3	5	1.42

## 3) 看護・業務・教育等の取組みについて

**看護：**神経筋難病患者の進行に伴った看護、リハビリ、在宅支援などが行えるよう合同カンファレンスなどで情報共有などを行なった。ALS の診断から在宅支援までの症例を 2 例経験し、意思決定支援、地域連携との連携に課題が見えたため、災害時などの対応と同様、在宅支援までの看護の見直しに取り組んでいる。

**業務：**機能別(入浴係)を廃止し、各チームでの清潔ケアの充実を目標に取り組みを行った。人員配置や夜勤人員の変更に伴いその都度チーム数の検討、看護ケアの見直しを行った。超過勤務についても毎月ごとに各個人の超過勤務時間を提示し、平均越えのスタッフにおいては現状の把握のため面談等を行なった。入院患者数や患者の自立度によって超過勤務時間などの変動があるため入院処理などの簡素化等に取り組んでいる。

**教育：**神経筋難病エキスパートナース研修に 1 名 認知症ケア研修 1 名 クリティカルパス研修 1 名

退院支援看護師研修 1 名 看護管理研修（ファーストレベル） 1 名

神経筋難病エキスパートナース研修には毎年 1～2 名参加、その受講生を中心に地域の神経筋難病看護・介護に従事する職員の知識や技術の向上、情報共有など地域連携を目的とした医療従事者研修を行なっている。

# 看護部－6階病棟－

看護師長 柴田 理恵子

## 1. 病棟の特徴

### 1) 診療科目

消化器内科、代謝内科、皮膚科

### 2) 特徴

6階病棟では、消化器内科、代謝内科、皮膚科を主とした診療・看護を行っている。また、総合心療内科の開設に伴い総合診療内科の患者を受け入れている。それ以外の診療科も感染症に罹患した患者を陰圧室などで受入れ担当している。消化器内科では悪性腫瘍や胆石症、消化管出血等に対する精査や内視鏡的専門治療や化学療法などを、代謝内科では糖尿病患者に対する血糖コントロールや生活指導、甲状腺疾患の精査などを、皮膚科では帯状疱疹や蜂か織炎の患者、悪性の皮膚腫瘍の摘出術を受けられる患者を多く受け入れている。また、インフルエンザや CRE など感染症に罹患した患者を受入れ、治療を行っている。

## 2. 活動内容

### 1) 患者数等（2019年度）（定床 55床 内訳一般：50床、結核：5床）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院患者数	31	43	43	49	51	52	52	53	59	69	53	43	49.8
退院患者数	30	27	31	31	38	30	50	37	43	44	39	34	36.1
死亡数	6	2	2	2	0	2	5	1	1	2	6	4	2.8
転出患者数	7	9	18	13	20	8	10	20	15	11	15	19	13.7
平均患者数	25.8	28.3	28.4	26.1	29.4	31.0	30.5	27.8	23.9	36.1	38.7	26.5	29.4
平均在院日数	22.2	23.9	18.7	16.8	17.1	19.6	16.1	14.7	11.7	17.5	19.7	16.1	17.8
病床利用率	51.7	56.6	58.3	53.1	60.2	62.9	60.9	55.5	47.8	72.3	77.3	53.1	59.1
平均年齢	73.1	73.3	69.8	72.2	67.8	42.5	67.1	75.2	74.4	69.7	73.4	70.5	69.1
看護必要度	37.7	39.1	44.3	28.5	35.7	42.5	41.5	35.1	21.7	29.1	33.6	46.9	36.3
特別室利用率	35.8	30.1	29.4	25.3	41.1	40.0	42.2	36.1	24.2	32.5	33.0	31.7	33.5

## 2) 検査・手術件数等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
手術件数	1	1	2	3	3	0	2	2	3	3	2	2	2.0

## 3) 看護・業務・教育等の取組みについて

看護：他職種カンファレンスの実施に取り組んだ。毎週、医師と地域連携室参加のカンファレンスは実施することができている。1ヶ月以上の入院患者について、今後の方針た転院先の状況など情報共有できている。退院時直後訪問について前期（9月）までは2件／月の実施ができていたが、後期については、患者数の増加もあり入院患者の看護が中心になり、実施できなかった。今後、退院時直後訪問が必要な患者に対し実施できるように検討する。化学療法患者の入院受け入れについて、化学療法学習会を実施し、受け入れ体制を整え受け入れ可能にした。

業務：患者の情報共有、継続看護の充実を図る事も目的に、看護体制を固定チーム制に10月から変更した。固定チーム制は、メリット・デメリットがあり変更後の評価をし、業務の見直し等検討する。

各種のアセスメントシートの評価や退院サマリーの期限内記載ができていない。来年度に向けての課題とする。

教育：看護管理研修（ファーストレベル）2名、退院支援看護師研修1名、認知症ケア研修1名参加  
学会発表 国立病院総合医学会 1題 長崎県看護学会学術集会 1題 日本医療マネジメント学会長崎県支部学術集会 2題  
病棟内勉強会1回／月 担当者を決め実施した。

# 看護部－8 病棟－

看護師長 酒井 真澄

## 1. 病棟の特徴

1) 診療科目：筋ジストロフィー、神経内科

2) 特徴：神経・筋難病患者が長期療養をしている。人工呼吸器が常時 45 台前後稼働しており、年々医療的ケア度が高くなってきている。患者一人ひとりの個別的ニーズに沿った、安全・安楽な療養生活がおくれることを目標としている。療養型病棟における、医師・看護師・療養介助専門員・療育指導室の役割を理解し、他職種が連携することで医療・看護の充実を図っている。

## 2. 活動内容

1) 患者数等（平成 30 年度）（定床 60 床）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
転入患者数	1	1	1	0	0	0	1	0	2	1	0	2	0.8
退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0.2
死亡数	1	0	0	1	0	0	0	1	2	2	0	0	0.6
平均患者数	58.1	58.5	59.6	59.8	59.0	59.0	59.8	59.4	58.2	57.9	56.0	57.1	58.5
病床利用率 (%)	96.8	97.6	99.4	99.7	98.3	98.3	99.7	99.0	96.9	96.5	93.3	95.1	97.6
平均年齢 (歳)	61.8	62.1	61.8	61.9	61.9	62.0	62.1	62.3	61.7	62.2	62.6	62.3	62.8
超重症(児)者 (%)	85.5	86.1	86.6	86.7	86.4	86.4	85.8	86.6	84.2	83.0	82.0	83.0	92.1

2) 人工呼吸器

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均使用件数	43.6	44.6	46.1	45.9	45	45	45.8	45.4	43.6	42.4	42.0	41.8	44.2

### 3) 看護・業務・教育等の取組みについて

看護：看護師長 1 名・副看護師長 2 名・看護師 35 名・療養介助専門員 15 名・業務技術員 1 名、看護助手 1 名（3/1 現在）。障害者病棟 7：1 看護体制。今年度は接触感染予防のため手指消毒使用の強化に取り組んだ。各自の意識の向上で 6 月以降患者一人あたりの手指消毒使用回数は目標値をクリアできるようになった。長期療養している患者が多く、患者との関係が親密になる傾向があるが、接遇や倫理に対するスタッフの関心を高め、質の高い看護を提供することを心がけた。各種カンファレンスの実施も定着してきているため、記録の充実や看護計画への反映を強化していきたい。

業務：医療的ケアが高まる中、患者の安全を考慮し、受け持つ部屋の見直しなどを行った。相互チェックを受け、療養介助専門員を中心に療養環境の見直しや環境整備を心がけ質の向上に務めた。それぞれの係の活動がもっと見える化に繋がるように係の話し合いや定期的な評価を行っていききたい。ベッドサイドモニタリングシステムを購入し、60 床全ての患者に対応できるようになった。携帯端末もさらに 4 台購入し、今まで以上に迅速なアラーム対応ができる環境が整った。

教育：平成 31 年度実績

新任評価者研修 1 名、神経筋難病看護エキスパートナース研修、脳卒中看護エキスパートナース研修 1 名、障害者虐待防止対策セミナー 1 名、療養介護サービス研修 1 名

---

# 看護部－手術・中材－

看護師長 松尾 多美子

## 1. 病棟の特徴

### 1) 診療科目

消化器外科、脳神経外科、整形外科、循環器内科、泌尿器科、皮膚科、消化器内科、脳神経内科

### 2) 特徴

各科手術、内視鏡検査・治療、心臓カテーテル検査・治療への対応と、医療材料の中央管理を行っている。患者の年齢、疾患、術式、検査方法、処置内容が多岐にわたるため、必要な高度医療が安全・安楽

に実施出来るように、一人一人の患者に合わせて準備・調整・看護実践を行っている。

## 2. 活動内容

### 1) ①手術件数（手術室3室（含BCR1室））

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外科	7	7	3	2	1	0	10	6	7	8	9	5	65
脳外科	2	1	3	5	5	3	5	7	6	5	6	6	54
整形外科	6	3	3	9	3	7	5	4	7	6	7	7	67
皮膚科	2	2	4	6	5	1	3	4	7	5	3	4	46
循環器内科	1	2	0	2	1	2	2	0	0	1	2	3	16
神経内科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
合計	18	15	14	24	15	13	25	21	27	25	27	26	250
内緊急	1	1	2	2	3	1	5	2	5	2	2	1	27
麻酔科依頼件数	1	6	2	1	3	1	8	8	6	7	8	7	58

②内視鏡件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査・治療	68	76	79	101	94	88	89	91	66	55	64	57	928
内緊急	3	8	8	3	6	2	6	5	3	1	6	2	53

③心臓カテーテル件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査・治療	4	6	6	3	8	4	3	6	4	6	3	3	56

3) 看護・業務・教育等の取組みについて

看護：看護師長 1 名、副看護師長 1 名、看護師 5 名（育児時間取得者 1 名、非常勤 1 名含）、中央材料室 4 名（委託職員）。手術室業務・内視鏡室業務、心臓カテーテル検査介助を担っている。侵襲的な治療・検査に関わる為、笑顔と配慮を忘れずに短時間であっても一人一人の患者に寄り添い不安や侵襲を最小限で必要な医療が提供出来るように、音楽や室温などの環境調整・物品管理、多職種との連絡調整を行いながら看護を実践している。

業務：各診療科の様々な症例への対応や緊急手術に備えて、医療器材などの物品管理を行っている。症例数・人員も限られている為、対応力を平均化するためマニュアルの充実と情報共有を行い協力しながら業務を行っている。

4 月より皮膚科外来を担当、11 月より休日の救急外来日勤、2 月より救急外来夜勤担当となり、救急外来訓練も実施しながら対応力の強化を図っている。

教育：症例数が少ない中での習熟が必要であるため、手術介助・内視鏡介助・心臓カテーテル介助を医師の協力を得ながら教育訓練を行っている。

学会発表 国立病院総合医学会

「学校教育と実習指導者によるカンファレンスの取り組み報告

～実習指導者にアンケートを実施して～

松尾 賢史

# 看護部－外来－

看護師長 浦部 優子

## 1. 病棟の特徴

### 1) 診療科目

脳神経内科、循環器内科、消化器内科、代謝内科、総合診療内科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、小児科、放射線科、歯科

### 2) 特徴

地域医療支援病院として、地域住民と地域医療機関からの紹介患者の診療をスムーズに行えるように医師と連携をとりながら関わっている。入院患者のベッドコントロールにおいても有効な病床管理に視点を置いて調整している。在宅や施設に戻られた後も継続看護ができるように、退院支援を通して病棟、訪問看護と連携している。

## 2. 活動内容

### 1) 患者数等 (2019 年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 外来患者 数	133.2	144.5	138.6	137.6	140.6	148.4	146.0	142.0	145.5	142.6	136.7	129.1	140.3
新患者数	308	432	477	465	497	392	455	467	480	383	378	360	423.7
延べ患者 数	2663	2745	2772	3028	2953	2820	3065	2839	2909	2709	2461	2712	2806.3
紹介患者 数	180	165	169	201	196	170	198	180	208	164	180	172	181.9
逆紹介患 者数	225	208	264	225	224	214	231	222	243	196	209	217	223.2
救急患者 数	457	525	605	637	648	615	660	587	631	552	490	475	577.4
救急車台 数	28	29	38	29	28	26	39	38	45	43	40	27	34.2

## 2) 検査・手術件数等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
外来化学療法	4	4	3	5	8	4	6	2	6	5	7	2	4.5
外来内視鏡	40	43	44	64	55	53	42	62	46	29	50	31	44.6

## 3) 看護・業務・教育等の取組みについて

看護：看護師長 1 名、副看護師長 1 名、常勤看護師 7 名（育児支援 4 名）非常勤看護師 6 名、外来クラーク 3 名、業務技術員 1 名

患者に安心して安全な診療を受けていただけるよう、患者、家族の思いに寄り添った看護に努めている。待ち時間も配慮し環境を整備している。転倒予防のため、転倒リスク評価を行いスタッフで情報共有し介入している。在宅での生活状況、内服状況を患者、家族へ聞き取り外来での指導介入をしている。

救急外来ではトリアージを行い緊急性を見極め、適切な診療処置が受けられるように努めている。

業務：リーダー制を導入しスタッフ全体の動きを把握し、外来全体での応援態勢の強化を図っている。各科へ対応できるようスタッフ育成日々をしている。各科の業務手順のマニュアルを整備し、同レベルで診療介助ができるようにしている。時間外の救急外来対応のため夜勤、小児科対応のための遅出を開始した。

教育：病態や治療、看護について毎月 1 回学習会を実施し、スキルアップを図っている。インシデントについてもカンファレンスを行い、スタッフへの周知と要因分析、対策について検討している。小児科ワクチン接種についても医師と看護師のチェック体制を整えて実施している。

# 看護部－訪問看護ステーション－

看護師長 出口 祐子

## 1. 特徴

平成 27 年 4 月に開設し、東彼杵郡 3 町中心の地域への訪問看護を提供している。

病気や障害を抱えながら療養生活を送る人の自宅へ訪問し、かかりつけ医との連携及びその指示に従って健康状態の観察や日常生活援助、リハビリ、ターミナルケアなどの在宅看護を提供している。また在宅看護専門看護師が在籍し、多職種共同で困難事例も積極的に受け入れ、住み慣れた地域・自宅でその人らしく療養生活を送ることができるよう 24 時間対応体制で支援している。

## 2. 活動内容

### 1) 利用者数等 (2019 年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数 (名)	28	31	31	27	27	25	28	28	30	26	27	29	28.3
医療保険利用者数	12	12	14	12	11	11	13	13	14	12	12	14	13
介護保険利用者数	16	19	17	15	16	14	15	15	16	14	15	15	15.3
新規介入 (名)	0	4	3	1	0	1	2	1	2	0	5	2	2.6
訪問看護 (件)	307	298	324	278	270	197	246	268	287	201	229	237	243
訪問リハ (件)	47	40	41	49	50	42	43	44	46	37	33	33	35.7
緊急時対応 (件)	3	3	13	6	3	2	7	4	7	7	3	5	4.7
在宅看取り (件)	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0.3

### 2) 看護・業務・教育等の取組みについて

**看護：**管理者（看護師長）1名 訪問看護師 4名 事務 1名（非常勤）リハビリ担当 0.5名（病棟兼務）  
在宅・施設で安全・安楽に過ごすことができるようかかりつけ医・地域介護スタッフなどと連携し体調管理・医療処置・清潔援助・リハビリなどその人に応じた看護全般のサービスを提供している。高齢世帯の増加に伴い、認知症看護や老老介護の支援などのケースが増加傾向である。

**業務** (1) 訪問看護の運営・実践  
(2) 利用料金請求事務（介護保険・医療保険）  
(3) 関係機関会議への出席

**教育** (1) 看護協会主催の訪問看護関連の研修受講（各自年 1～2 回程度）  
(2) 配置換え看護師に対する教育体制の強化  
(3) 毎日の事例ディスカッション・情報共有で学習  
(4) 学会発表

①木口 綾子：2019 年長崎県看護学会学術集会 諫早市 2019/8/31

特別講演「地域包括ケアにおける訪問看護師の役割～東彼地区での訪問看護の実践と課題について～」

②木口 綾子：日本看護研究学会九州・沖縄地方会第 24 回学術集会 由布市 2019/11/9

シンポジスト「訪問看護師として取り組んだ事例研究」

(5) 学生実習（在宅看護論）

学校名	受け入れ人数（延べ）	受け入れ日数（延べ）
嬉野医療センター附属看護学校	8名	16日
向陽高等学校専攻科	4名	22日
武雄看護リハビリテーション学校	4名	20日

# 薬剤部－薬剤科－

## 1. 概要

薬剤部目標は、①医薬品の適正使用及びチーム医療の推進（病棟薬剤業務の充実、薬剤管理指導、特にハイリスク薬及び麻薬服用患者への指導の充実、退院時薬剤情報管理指導件数の充実、外来患者に対する薬学的管理の充実）②医療安全の推進（ヒヤリ・ハット事例の収集と対応策の検討、疑義照会事例の収集及び情報共有並びにプリアポイド報告の推進）③病院経営への参画（後発医薬品の使用促進、医薬品在庫の適正化）④臨床研究の推進（学会発表）を掲げ、業務改善・質の向上につながる取り組みを行った。今年度は業務体制のシフト化を行い、効率化と超過勤務の縮減を図ってきた。

## 2. 調剤業務

### （1）内用・外用

外来患者については、院外処方を原則としていることから、薬剤部では主に入院患者の調剤を行っている。当院は高齢の患者が多いことや筋ジス病棟があることから、簡易懸濁法や一包化による調剤を積極的に行っている。医療安全に関しては、薬剤部のヒヤリ・ハット事例を分析し、複数規格医薬品、名称類似医薬品など取り違いのリスクが高い医薬品について、処方せん等の医薬品の規格の強調、医薬品名に色を着けるなど表示の工夫をしている。また、抗がん剤については、他病院で起こったテモダール医療事故を鑑み、医療職スタッフが抗がん剤と識別できるよう検討し、薬品名の前に（腫）を付ける表示や処方時に休薬確認のアラートなどで注意喚起の改善を行った。さらに患者毎に抗がん剤の服薬管理表を作成し、投与量及び休薬期間等の確認を行っている。

### 【処方せん枚数】

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
入院	28,335	29,929	29,306	24,956	20,382
外来院内	1,704	1,455	1,783	1,218	1,214
外来院外	19,423	19,456	21,807	20,971	22,220

## (2) 注射

注射薬は医療安全を推進する観点から、患者毎に一施用ごとの払い出しを行っている。また、取り揃え時と監査時のダブルチェックにより用法・用量等に加え投与速度及び配合変化等の確認を行っている。患者施用ごとの注射ラベル（バーコード付）を発行し、注射剤に添付して払い出しており、実施時にバーコードによる認証を行うシステムとなっている。

### 【注射せん枚数】

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
入院	43,492	44,482	41,435	31,223	23,310
外来	1,831	1,811	1,632	1,652	1,701

## 3. 製剤業務

業務として抗がん剤調製や特殊なT P N調製（中心静脈栄養）などの無菌調製および院内製剤を行っている。抗がん剤調製は、医療安全及び暴露防止の観点から、原則全て薬剤師が調製を行っている。抗がん剤のレジメンは外来化学療法委員会で承認されレジメン登録されたもののみ使用可能となっており、薬剤師による確認の他、システムで投与量及び休薬期間等のチェックを行っている。今年度は抗がん剤調製時における監査の手順などの見直し、マニュアルの改訂を行った。院内製剤としてはヒドロキノン軟膏の調製を開始した。

### 【無菌調製件数】

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
抗がん剤	入院	217	290	217	100	74
	外来	92	78	66	39	59
T P N	入院	38	51	22	26	12

#### 4. 医薬品情報管理業務

医薬品情報については、毎月厚生労働省から発刊される「医薬品・医療機器等安全性情報」を電子カルテの掲示板にて情報提供するとともに、医局会において情報提供を行っている。また、厚生労働省等から発出される医薬品に関連する通知等についても必要に応じ情報提供している。2017年度よりプレアボイド報告を積極的に行うことを目標に取り組んでいるが、今年度も日本病院薬剤師会に56件の報告を行った。報告した事例のうち、特に注意すべき事例の内容については薬剤師の介入事例として医局会において情報共有を行っている。

##### 【日本病院薬剤師会へのプレアボイド報告件数】

2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
4	14	58	59	56

#### 5. 医薬品管理業務

医薬品の採用は薬事委員会で決定することとされており、1増1減を原則としている。後発医薬品への切り替えを推進しており、新しく発売される後発医薬品を積極的に薬事委員会に提案し切り替えを行った。後発医薬品の数量ベースの使用割合は今年度97.2%で前年度95.5%より1.7%増加した。来年度においても高額な医薬品をはじめ新規に発売される後発医薬品について切り替えの提案を行っていきたい。また在庫管理については適正化に努め、不必要に在庫を置かないよう管理に努めたい。

##### 【医薬品採用品目数】

2018年度		2019年度	
内用薬	455（後発品：213）	内用薬	454（後発品：219）
外用薬	157（後発品：65）	外用薬	155（後発品：63）
注射薬	367（後発品：116）	注射薬	365（後発品：121）
合計	979（後発品：394）	合計	974（後発品：403）

## 6. 病棟業務および入院支援

平成27年6月から病棟薬剤業務実施加算の算定を開始し、医師の負担軽減及びチーム医療の推進等に取り組んでいる。病棟薬剤業務を開始することで、患者が医薬品を服用する前の段階から薬学的介入が可能となり、TDMに基づく処方提案、腎機能に応じた処方提案及び持参薬に基づく当院処方の提案など早い段階から処方薬の確認を行っている。この様な取り組みの継続がブレイク報告件数の増加に繋がっていると考えられる。

薬剤管理指導では、主に患者が医薬品を服用した後の副作用モニタリング等を行っており、副作用に対する支持療法の処方提案、副作用を回避するための代替薬の提案、定期的な検査の実施が必要な薬剤に対する検査オーダーの提案などを行っている。特にハイリスク薬を服用する患者について、指導の充実を目標として実施してきた。退院時指導については、患者にとって退院後の服薬管理にお役に立てるようこれまでも積極的に実施している。入院中に服用した医薬品の一覧、その他留意事項等をお薬手帳に記載し、患者のかかりつけ保険薬局や施設等に情報提供を行っている。

地域包括ケア病棟においては、病棟薬剤業務実施加算及び薬剤管理指導料の算定が出来ないが、入院中の医薬品に関する情報を含めた退院時処方の情報を保険薬局及び施設等へ提供することは薬薬連携のうえで非常に有意義であることから、地域包括ケア病棟においても実施している。

2018年度より、入院支援センターにおいて薬剤部が手術や観血的処置予定患者および造影検査予定患者の内服薬を把握し、中止する薬剤がないかどうかの確認を行う業務を行っている。

### 【薬剤管理指導及び退院時薬剤情報管理指導件数】

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
薬剤管理指導	4,011	4,996	4,694	4,598	4,115
(ハイリスク薬)	(1,902)	(2,086)	(2,058)	(2,397)	(1,970)
退院時薬剤情報 管理指導	759	749	700	793	686

### 【入院支援センター薬剤師関与件数】

2018年	2019年
198	238

## 7. 業績

第43回九州地区国立病院薬剤師会薬学研究会並びに総会	腎機能低下時の疑義照会に関する調査	中原 萌子	2019/7/7
第73回国立病院総合医学会	腎機能低下時の疑義照会に関する調査	中原 萌子	2019/11/9
令和元年度佐賀・長崎地区国立病院薬剤師会薬学研究会	低用量トルバプタン投与症例の検討	佐藤 未千世	2019/12/7
第29回日本医療薬学会年会	神経障害性疼痛に対してタペンタドールが効果を示した1症例	糸永 昇平	2019/11/3
第67回日本化学療法学会総会	<i>Staphylococcus lugdunensis</i> 薬剤感受性の検討	小林 宇太郎	2019/5/10
第29回日本医療薬学会年会	<i>Staphylococcus lugdunensis</i> 臨床分離株の薬剤感受性傾向と動向	小林 宇太郎	2019/11/4
第25回長崎クリニカルファーマシー研究会	<i>Staphylococcus lugdunensis</i> 臨床分離株の薬剤感受性傾向と動向	小林 宇太郎	2020/2/29
第73回国立病院総合医学会	入院支援センターへの薬剤師介入による、リスクマネジメント強化に向けた取り組み	田中 基稔	2019/11/9

# 薬剤部－治験管理室－

## 【概要】

当院の診療圏は、長崎県北部を中心に佐賀県西部地区まで広くカバーしている。また、県央地域保健医療圏の二次救急医療機関である。神経・筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（以下、ALS）、進行性筋ジストロフィー症等の神経疾患）に関する専門医療施設としての診療、循環器疾患等に関する専門的な診療を行っている。

## 【治験管理室体制】

臨床研究部長を治験管理責任者、薬剤部長を治験管理実務責任者、治験薬剤師（CRC）1名（併任）、治験看護師（CRC）1名（併任）、非常勤事務職員1名、会計担当1名を配置している。

治験手順書、治験審査委員会等を整備し、医師、看護師、コメディカルと連携を図り、実施率100%を目標に迅速で信頼できる治験を目指している。

	職名	氏名
治験管理室長（治験管理責任者）	臨床研究部長	福留 隆泰
治験事務局長（治験管理実務責任者）	薬剤部長	小山田 純治
治験コーディネーター	薬剤師	田中 基稔
	看護師	岩崎 智子
治験事務	企画課長	石川 秀利
	受託・申請書等事務	柴田 さやか

## 【治験実施状況】

治験の実施体制を平成15年度より整え、神経・筋疾患の治験を中心に循環器内科、脳神経内科、脳神経外科の治験を積極的に受け入れてきた。2019年度は、脳神経内科での新規治験の契約はなかったが、脳神経外科における「てんかん」領域の治験を新規に契約し、被験者からの同意取得・治験実施にまで至っている。近年、全体的な請求金額は減少傾向にあり、定期的な被験者スクリーニングによる候補症例の選定なども継続しているが、2019年度終了時点での実施率についても50%で例年と比較し低下した。

		2017 年度	2018 年度	2019 年度
請求金額（円）		6,694,928	3,652,179	2,433,386
新規	治験課題数	1	1	1
	契約症例数	1	1	1
	実施症例数	1	0	1
	実施率	100%	0%	100%
継続	治験課題数	3	3	3
	契約症例数	12	9	4
	実施症例数	8	8	3
	実施率	67%	89%	75%
合計		69%	80%	80%

#### 【臨床研究において積極的にやっていること】

当院は神経筋疾患では、基幹医療施設となっており、神経変性疾患（パーキンソン病及び類縁疾患、ALS、脊髄小脳変性症）や免疫性神経疾患（ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎など）の診療を積極的に行っている。

また、地域支援病院として、脳血管障害急性期、虚血性心疾患、高血圧症、高脂血症及び糖尿病などの生活習慣病、急性肺炎、呼吸不全の増悪などの患者の受け入れも多い。

#### 【今後の方針】

当院での治験業務の中心を担っていた呼吸器内科の休診や脳神経内科医師の異動・退職等が重なったことによる新規契約課題の減少は、年間の請求金額の減少の大きな要因のひとつである。実績の回復に向け、より多くの新規課題取得を目指す必要があるため、本部より定期的に行われている治験参加意向調査アンケートへの積極的な回答を継続するとともに、当院で実施可能な課題の有無を製薬企業などに確認していきたいと考えている。年間の請求金額は減少傾向にある一方で、実施率については維持できており、2019 年度においては全体で 80%と前年度と比較し横ばいであった。今後も実施率 100%を目指し、1 例でも多くの症例登録に努めていきたい。

# 臨床放射線

診療放射線技師長 森田 伸二

## 【概要】

診療放射線科では、CT・MRI・SPECT などの最新の撮影装置を用いた画像診断、核医学検査、血管内治療など、医療現場で求められる様々なニーズに対応している。80 列マルチスライス CT では心臓 CT、大腸 CT も行っている。1.5 テスラ MRI 装置では頭部、脊椎、腹部、骨盤、四肢、乳房など全身の検査を行っている。RI 装置は診断用マルチスライス CT を搭載した SPECT・CT 装置で脳血流、骨、腫瘍、肺、心筋シンチ等で画像の融合を行っている。地域医療支援病院として、東彼 3 町の急性期病院としての機能を果たしながら最新医療機器の共同利用を推進し提供している。

## 【大型医療機器の稼働状況】

CT 3730 件（2018 年度 5190 件、昨年比 71.9%）

MRI 2674 件（2018 年度 3083 件、昨年比 86.7%）

RI 163 件（2018 年度 181 件、昨年比 90.1%）

血管造影 64 件（2018 年度 96 件、昨年比 66.7%）

## 【共同利用状況】

CT 321 件（2018 年度 375 件、昨年比 85.6%）

MRI 694 件（2018 年度 663 件、昨年比 104.7%）

RI 9 件（2018 年度 11 件、昨年比 81.8%）

## 【研究業績（学術発表）】

発表者	標題	学会名	開催期間	場所	形式
大山 康裕	MRI 装置の違いによる早期 AD 診断支援システム解析結果への影響	第 4 1 回長崎 CT・MR 研究会	2019.8.3	長崎	口述

# 臨床検査

---

## [概要]

臨床検査科は、臨床検査科長の他、技師長・副技師長・主任技師（2名）・技師（5名）合計9名のスタッフにて業務を行っている。平成31年度は、人事異動などで2名の技師（副技師長、主任技師）が入れ替わった。検査件数は前年度を下回ったが、精度あるデータを迅速に提供することに心掛け業務を行ってきた。業務の他に、昨年8月から勤務時間の変更を行い超過勤務の縮減にも取り組んだ。また、昨年度は電子カルテ更新に伴う、部門システムの更新がなされ、検体・細菌・生理検査各部門のシステムの更新がなされた。生理検査部門では新規項目の導入を行なった。感染対策等のチーム医療への参画、また各種研修会・学会への参加、認定資格取得に向けて自己研鑽に努めた。

## [部門別報告]

### （検体検査部門）

検体検査部門に於いては、総件数に於いて昨年度比13%のダウンであった。他部門とのフォロー体制を構築し、迅速な検査結果報告を行なうための体制づくりを行った。来年度は生化学分析装置の更新が予定されており、更新機器の安定した稼働、尚一層精度あるデータを迅速に提供するように取り組んで行く。また検査内容としては新規項目の検討、IFCC法による、LD・ALPの標準化測定法への変更を進めていく。また検査データの担保となる、外部精度管理に於いては日本医師会精度管理調査、長崎県医師会精度管理調査に参加する。また、標準作業手順書の改定を含めた、各種マニュアル作成にも着手する。また、形態学的検査のスタッフ間のレベルアップにも取り組み、より安定したデータの提供ができるよう一層取り組んで行く。

### （細菌検査部門）

細菌検査に於いては、薬剤耐性菌検出時にはTo-Doを利用し、対象者にフィードバックを行い、また試薬・培地の見直しを実施し、余剰在庫の解消を行った。ルーチン検査では、インフルエンザを始め9項目の迅速検査報告を始めとする、同定・感受性検査、また日常業務の他に、ICT活動・加算カンファ等へ参画し、院内感染対策にもチーム医療の一員として取り組んだ。来年度は業務の一環として病院機能評価受審に向け、標準作業手順書の見直し、また細菌担当技師の育成に取り組んで行く。

### （生理検査部門）

生理検査に於いては、今年度は検査総数にて前年度比10%ダウンであった、特に腹部・下肢静脈超音波検査総数にて目標件数を前年度比5%件数UPとしていたが、結果として前年度を15%程下回る件数であった。しかし、表在・腎動脈超音波検査において76件と、前年度に比べ2倍以上件数が増加した。昨年度の生理検

査部門システム更新に伴い、心電計（病棟含む）・24時間心電図解析装置の更新がなされた。また新規項目として下肢動脈エコーを取り入れ件数アップにつなげた。また、各種認定資格取得や学会発表にも全員で取り組み、超音波認定検査士を取得した。また平成30年8月から検査を始めた長時間ビデオ脳波同時記録検査については、平成31年度は152件/年（1日記録/件カウント）の実績、月平均13件であった。検査の実施の他、患者さんへの検査説明も加えて行い、来年度も取り組んでいきたい。来年度は新規取り組みとして、心臓リハビリ検査にチーム医療の一員として参加し、件数アップに取り組むたい。

今年度はチーム医療への参画、各種学会・研修会への積極的参加を行い、個人のスキルアップに努めた。技師2名が認定超音波検査士の資格を取得した。来年度も各種認定資格の取得や学会・研修会に積極的に参加するなど自己研鑽に努めるとともに、信頼できるデータの提供に日々努力していきたい。また生化学分析装置の更新が予定されているが、検査機器に関しては老朽化が進み稼働年数が経過している機器が多く、引き続き機器更新の要望を行ってきたい。また昨年度同様、健康フェスタ等の行事にも積極的に参加をしていく。

## [業績]

- （症例発表）・大崎 晴美 『胆嚢癌症例について』 長崎県中地区超音波部会 症例検討会  
2019/10/28 大村市
- ・中村 佳織 『乳癌3症例』 国立病院臨床検査技師協会九州支部生理検査研修会  
2020/2/8 嬉野市
- ・藤田 哲毅 『胆嚢病変の症例』 国立病院臨床検査技師協会九州支部生理検査研修会  
2020/2/8 嬉野市
- ・清 美沙紀 『左房粘液種の一例』 国立病院臨床検査技師協会九州支部生理検査研修会  
2020/2/8 嬉野市
- （講演）・室内 舞子 『不規則抗体検査・交差適合試験について』 2019度初級者輸血検査研修会  
2019/8/18 長崎市
- （座長）・中村 孝男 『JCI施設におけるPOCTについて－管理と審査後の対応－』 日本臨床検査技師会九州支部卒後教育研修会 『第12回 生物化学部門研修会』 2019/9/7 長崎市

# 臨床検査科（H31年度 計）

2019/4/1～2020/3/31

臨床検査（件数）		入院	外来	計
検 体 検 査	尿検査	1,561	4,766	6,327
	糞便検査	54	191	245
	穿刺液・採取液検査	43	13	56
	生化学検査	73,651	153,246	226,897
	血液検査	12,682	21,705	34,387
	血球計算	4,870	9,446	14,316
	血液像検査	4,604	6,892	11,496
	血液凝固検査	2,941	4,547	7,488
	血沈降速度測定	267	820	1,087
	細菌検査	1,780	1,367	3,147
	一般塗抹	546	454	1,000
	一般培養	513	425	938
	抗酸菌塗抹	132	112	244
	抗酸菌培養	137	108	245
	血液培養	452	268	720
	PCR検査	76	88	164
	免疫血清検査	2,309	3,899	6,208
	病理組織検査	218	144	362
	細胞学的検査	72	99	171
	血液ガス測定検査	350	364	714
細菌迅速検査	135	193	328	
その他迅速検査	103	649	752	
生 理 機 能 検 査	心電図	1,062	2,565	3,627
	ホルター心電図	125	114	239
	負荷心電図	2	30	32
	筋電図	0	0	0
	筋電図(2神経)	61	43	104
	脳波(モニタリング脳波1日記録を1件としカウント含む)	174	85	259
	呼吸機能	92	102	194
	超音波	0	0	0
	聴力眼底検査	2	523	525
	血圧脈波	75	44	119
	PSG、その他	4	4	8
	サーモグラフィー	0	1	1
	超音波(心・頸部・下肢)	653	695	1,348
	超音波(腹部・甲状腺)	120	481	601
超音波(その他)	4	0	4	
外部委託検査	993	1,960	2,953	
総生理検査件数	2,374	4,687	7,061	
総検体検査件数	94,027	188,684	282,711	

# リハビリテーション科

---

副理学療法士長 野崎 貞徳

## 理念

### 《リハビリテーション科理念》

地域に根付き、家庭・社会への復帰を目指した総合的なリハビリテーションの提供をめざします。

### 《リハビリテーション科運営目標》

- ・患者さんの尊厳を重視し、プライバシーを守ります。
- ・患者さんの自立支援・生活の質（QOL）の向上を最大限に図ります。
- ・「急性期から在宅まで」包括的かつシームレスなリハビリテーションサービスを提供します。
- ・地域住民の健康維持、増進のために貢献します。
- ・自己研鑽に励み、働きがいのある職場作りに努めます。

### 《目標》

- 1) 休日リハビリテーションの継続（土曜リハ・大型連休時）
- 2) 包括病棟のリハビリ基準達成
- 3) 訪問リハビリテーションの継続
- 4) がんリハビリテーション研修への参加継続
- 5) 診療報酬適正化・実績の向上を図る
- 6) 心臓リハビリテーションの開設
- 7) 学会への積極的な参加・発表
- 8) 他部門との連携強化
- 9) 養成校学生の受け入れ継続

## スタッフ

リハ科医長(兼任) : 1名

定員 理学療法士 : 11名 作業療法士 : 4名 言語聴覚士 : 3名

非常勤職員(助手) 1名

## 施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) 廃用症候群リハビリテーション料 (I)

運動器疾患リハビリテーション料 (I) 呼吸器疾患リハビリテーション料 (I)

がん患者リハビリテーション料

## 週間スケジュール

・脳神経外科カンファレンス(水曜 8:00～) ・神経内科病棟カンファレンス(木曜 15:00～)

・包括病棟カンファレンス(水曜 8:40～) ・神経難病病棟カンファレンス(木曜日 8:40～)

・脳卒中カンファ(水曜 13:00～) ・地域医療連携室合同カンファレンス(金曜日 15:30～)

## 主な対象疾患と特色

対象疾患 : 神経・筋疾患、整形疾患、脳卒中、呼吸器疾患、外科術前後、脳外科術前後

特色 : 神経筋疾患の基幹施設であるため、治療・検査・レスパイト目的に入院された難病患者的のリハビリを実施している。また、脳卒中・整形外科疾患等、早期リハビリを実施している。

また、外科・脳外科の術前術後、がんリハ、神経・筋疾患患者へ呼吸リハも取り組んでいる。さらに摂食・嚥下障害に対する嚥下リハビリテーションや、神経筋疾患患者への意思伝達装置の導入やスイッチの改良も積極的に行っている。2015.8より地域包括ケア病棟のリハビリテーション、2016.6より訪問リハビリテーションを平日午後から実施している。

次年度、心臓リハビリテーション開設予定。

## 平成 31 年度診療実績

	疾患別件数（件）	疾患別単位数（単位）	療法士 1 日平均単位
理学療法	18,025	34,245	17.0
作業療法	7,263	14,595	16.8
言語聴覚療法	6,466 (摂食機能訓練：714)	10,929	17.0
訪問リハビリテーション	504	1,005	

## 施設内活動への参加状況

管理診療会議、病床管理会議、月次評価会議、医療安全推進部会、診療録委員会、広報誌委員会、在宅医療支援推進会議、働き方改革委員会、ボランティア委員会、NST委員会、脳卒中ワーキンググループ、緩和ケア委員会、患者サービス向上委員会、糖尿病教室、認知症カフェ、排尿ケアラウンドなど

## 研究・発表活動

学会や臨床研究は各自が設定 その他、地域・神経難病研修・院内での講演を年数回実施。

科内勉強会(月 1 回)

第 5 回日本心臓リハビリテーション学会九州支部地方会 2019/10/19

「当院における心不全リハビリテーション患者の特徴と再入院に影響する因子の検討」

NHO 長崎川棚医療センターリハビリテーション科：錦戸正樹

第 31 回長崎県理学療法学会 2020/2/15

「当院の心不全患者における現状と予後予測」

NHO 長崎川棚医療センターリハビリテーション科：松下佳矢

## 連休等の対応

土曜日は二人体制で出勤 長期連休は交代で出勤（連日ではない）

# 栄養管理室

## 1. 概要

スタッフは管理栄養士（栄養管理室長、栄養係）非常勤栄養士、非常勤事務員の4名、調理師4名の計8名。業務内容は入院患者の食事療養（食事提供）、栄養管理、入院・外来患者への栄養食事指導、食事形態の調整や食欲不振等患者の対応、栄養サポートチーム（NST：Nutrition Support Team）の運営・活動等、多岐にわたっている。またチーム医療として褥瘡チーム、緩和ケアチームにも参画した。

## 2. 業務実績

### ①食事サービス

献立には季節ごとの野菜や果物、魚を随時取り入れた。また、毎月、行事食として季節に合わせた食事や日本各地の郷土料理の提供を行った。患者への食事アンケートでは、多くの方より「食事に満足している」という意見を頂いた。

### ②栄養食事指導件数

2019年度個人栄養食事指導は534件実施。指導疾患は糖尿病、心臓病、高血圧症が多かった。集団栄養食事指導として、糖尿病教室を管理栄養士・看護師・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師とともに毎週1回実施した。また平成29年10月より医師・看護師と糖尿病透析予防指導を開始している。

#### 【栄養食事指導件数】

個人指導				合計	集団指導			合計	糖尿病 透析予 防指導
算定		非算定			算定		非算定		
入院	外来	入院	外来		入院	外来	入院		
267	133	109	25	534	15	2	30	47	7

#### 【疾患別栄養食事指導件数】

疾患	件数	疾患	件数
糖尿病	231	胃・十二指腸潰瘍	6
心臓病	111	肝臓病	6
高血圧症	62	貧血	4
脂質異常症	32	膵臓病	2
腎臓病	22	痛風	2
がん	18	クローン・潰瘍性大腸炎	2
胆石症	10	低栄養	2
摂食・摂食嚥下	8	手術	1
肥満症	8	その他	8

③特別食加算率

加算率は19.49%であった。提供数が多かった特別食は糖尿病食、心臓病食だった。

食事療養数	普通食	非加算特別食	加算特別食	加算率 (%)
193,009	34,529	120,858	37,622	19.49%

④経理状況

食材の単価をみながら献立調整を行い、適正価格での食事提供に努めた。

年間消費額	1食あたりの実行単価
52,088,554円	269.88円

3. 学会発表・講演会

1) 吉丸雅美

第21回日本医療マネジメント学会

演題名：『働き方改革』と地域包括ケアシステムにおける『自助』について考える

日時：2019.7.19

第73回国立病院総合医学会

演題名：洗剤・消毒剤の見直しによる経費削減効果について

日時：2019.11.8

主催：大村彼杵薬剤師会薬業連携勉強会

テーマ：糖尿病の食事～制限食じゃなく、みんなのバランス食です～

日時：2020.2.4

# 臨床研究部

## A 欧文

No.	著者・タイトル・学術雑誌名・巻号・年
A-a	
	Mitsutake, A., Matsumo, H., Hatano, K., Higuchi, O., Nakane, S. and Hashida, H. A case of Parkinson's disease following autoimmune autonomic ganglionopathy. <i>Neurology and Clinical Neuroscience</i> .2019.7;212-214
	Nakane, S., Mukaino, A., Higuchi, O., Yasuhiro, M., Takamatsu, K., Yamakawa, M., Watari, M., Tawara, N., Nakahara, K. I., Kawakami, A., Matsuo, H. and Ando, Y. A comprehensive analysis of the clinical characteristics and laboratory features in 179 patients with autoimmune autonomic ganglionopathy. <i>Journal of Autoimmunity</i> .2020.108;8
	Sugawara, M., Obara, K., Nakanishi, S., Higuchi, O. and Nakane, S. Anti-ganglionic acetylcholine receptor antibody causes prolonged megacolon in a patient with amyotrophic lateral sclerosis. <i>Neurology and Clinical Neuroscience</i> .2019.7;139-140
	Yamashita, Y., Oe, T., Kawakami, K., Osada-Oka, M., Ozeki, Y., Terahara, K., Yasuda, I., Edwards, T., Tanaka, T., Tsunetsugu-Yokota, Y., Matsumoto, S. and Ariyoshi, K. CD4(+) T Responses Other Than Th1 Type Are Preferentially Induced by Latency-Associated Antigens in the State of Latent Mycobacterium tuberculosis Infection. <i>Frontiers in Immunology</i> .2019.10;11
	Nakane, S., Umeda, M., Kawashiri, S., Mukaino, A., Ichinose, K., Higuchi, O., Maeda, Y., Nakamura, H., Matsuo, H. and Kawakami, A. Detecting gastrointestinal manifestations in patients with systemic sclerosis using anti-gAChR antibodies. <i>Arthritis Research &amp; Therapy</i> .2020.22;10
	Nakahara, K., Nakane, S., Kitajima, M., Masuda-Narita, T., Matsuo, H. and Ando, Y. Diagnostic accuracy of MRI parameters in pure akinesia with gait freezing. <i>Journal of Neurology</i> .2020.267;752-759
	Imamura, M., Mukaino, A., Takamatsu, K., Tsuboi, H., Higuchi, O., Nakamura, H., Abe, S., Ando, Y., Matsuo, H., Nakamura, T., Sumida, T., Kawakami, A. and Nakane, S. Ganglionic Acetylcholine Receptor Antibodies and Autonomic Dysfunction in Autoimmune Rheumatic Diseases. <i>International journal of molecular sciences</i> .2020.21
	Eguchi T, Tezuka T, Fukudome T, Watanabe Y, Sagara H, Yamanashi Y. Overexpression of Dok-7 in skeletal muscle enhances neuromuscular transmission with structural alterations of neuromuscular junctions: Implications in robustness of neuromuscular transmission. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> .2020.523;214-219
	Sho Aoki, Kazuaki Nagashima, Minoru Furuta, Kouki Makioka, Yukio Fujita, Kazuma Saito, Tomoyuki Kashima, Nozomi Nakajima, Hayato Ikota, Osamu Higuchi, Yoshio Ikeda. A Case of Anti-LRP4 Antibody-associated Myasthenia Gravis with a Rare Complication of Thymoma Successfully Treated by Thymectomy. <i>Internal medicine (Tokyo, Japan)</i> .2020.59;1219-1222

	Serina Koto,Masataka Umeda,Hiroaki Kawano,Yushiro Endo,Toshimasa Shimizu,Tomohiro Koga,Kunihiro Ichinose,Hideki Nakamura,Akihiro Mukaino,Osamu Higuchi,Shunya Nakane,Atsushi Kawakami . Behçet's Disease with Severe Autonomic Disorders Developing after Herpes Zoster. Internal medicine (Tokyo, Japan) .2020.59;1099-1104
	Shunya Nakane,Osamu Higuchi,Koutaro Takamatsu,Akihiro Mukaino,Yasuhiro Maeda,Hidenori Matsuo,Yukio Ando. Anti-LRP4 autoantibodies in myasthenia gravis: Where are we and where are we going? Clinical Experimental and Neuroimmunology .2019;79-84
A-b	
A-c	
A-d	
A-e-1	
A-e-2	

## B 邦文

No.	著者・タイトル・学術雑誌名・巻号・年
B-a	
	富永 文子. 【新人～若手スタッフが"看護"を実感できる教育法】採用時研修における3年目看護師の語りの実践と効果. 看護人材育成 2019;16(1):2-11
	内田 史武, 西牟田 雅人, 寺田 隆介, 宮下 光世. 柿胃石嵌頓による小腸潰瘍・閉塞の1例. 長崎医学会雑誌.2019;94(1):58-62
	宮下 光世. カンパニオ 2019 ペイハラなつとく対応 長崎大学病院 Ver. 事例「『院長を出せ』と外来で騒いだケース」. 糖尿病ケア.2019;16(8):761

	内田 史武, 寺田 隆介, 宮下 光世. 閉塞性 S 状結腸癌の口側に、膀胱筋層に達する魚骨穿孔と膿瘍形成を合併した 1 例. 長崎医学会雑誌.2019;94(3):177-180
	樋口 理. 第 7 章チロシンキナーゼ関連薬剤. 決定版 阻害剤・活性化剤ハンドブック (秋山徹・河府和義編) 2019:128-137
B-b	
B-c	
B-d	
B-e-1	
B-e-2	

### 学会発表数

国際学会 招待講演、特別講演、受賞講演	国際学会		国内学会 招待講演、特別講演、受賞講演	国内学会	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
		2			41

## 社会活動

氏名	委員会等名	関係機関名
福留隆泰	理事	長崎県難病医療連絡協議会
福留隆泰	理事	長崎県 ALS 協会
樋口理	評議員	日本神経免疫学会

## 民間等との共同研究

氏名	共同研究先	研究題目
樋口理	コスミックコーポレーション社	自己抗体検査システム開発
樋口理	イーバック社	重症筋無力症関連自己抗体遺伝子のクローニング
樋口理	タグシクス・バイオ社	アプタマー創薬研究

## 競争的研究資金獲得状況

項目	研究課題名	研究者名	研究事業名(依頼業者名)	主任分担の別
厚生労働科学研究費	スモンに関する調査研究	福留 隆泰	厚生労働省行政推進調査事業補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)	分担
厚生労働科学研究費	神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	松尾 秀徳	厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策)	分担
日本学術振興会科学研究費	自己免疫性自律神経調節障害の「多様性」に関する多角的研究	樋口 理	科学研究費補助金(学術研究助成基金助成金・基盤研究(C) 一般)	分担

## 特許

氏名	特許権名称	出願年月日	取得年月日	番号
福留隆泰	興奮収縮連関の障害の判定装置の作動方法		2017.9.15	6206912号

## その他

### 非常勤講師

氏名	職(担当科目)	関係機関名

### 新聞等に掲載された活動

氏名	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連

### 学術賞受賞

氏名	賞の名称	授与機関名	授賞理由、研究内容等

### ○特筆すべき事項

- ①福留隆泰 啓蒙 認知症カフェ 2018年4月から毎月第2水曜日

# 医療相談支援センター－地域医療連携室－

看護師長 富永 文子

## 1. 特徴

地域医療連携室と入院支援センターの2つの機能を有している。地域医療連携室は、かかりつけ医を支援し地域医療の充実を図ることを目的として施設の共同利用、地域医療従事者の研修を行っている。より質の高い医療サービスを目指し医療機関との連携を密にし、病診連携を推進し、地域に開かれた病院のとしての役割を果たす。また、入院中から退院を見据えた関わりを行い、安心・納得して退院し住み慣れた地域で生活を継続できるよう多職種で協同し支援を行っている。入院支援センターは、入院予約の時点で患者の状態をアセスメントし、早期に退院困難な要因を抽出し退院支援、調整を行っている。

## 2. 活動内容

### 1) 連携室業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診察予約	86	87	72	95	77	73	88	73	83	69	67	81	951
共同利用 CT	29	30	39	28	22	24	26	27	20	12	28	29	304
MRI	57	52	67	52	60	51	69	52	67	51	63	51	692
内視鏡	13	7	9	27	23	15	11	9	12	6	7	9	148
その他	1	1	3	3	3	1	0	1	0	1	1	1	36
転院予約	10	14	6	12	9	12	6	16	12	19	15	6	137
介護連携指導料	6	3	0	2	4	0	2	1	4	3	1	2	28
入院支援センター介入数	53	57	48	65	54	45	52	31	45	55	37	34	576
連携室支援介入件数	112	107	110	106	105	80	81	84	74	114	115	76	1164

### 2) 看護・業務・教育等の取組みについて

看護：入院支援センターでは入院予約時点で患者と面談し入院案内を行い入院生活に対する不安の軽減に努めるとともに患者の状態をアセスメントし薬剤師など多職種と連携をとり退院後の生活を見据えた支援を開始している。地域連携室では、転入調整や検査・外来受診予約などの前方連携と退院や

転院などの後方連携を行っている。入退院スクリーニングにて早期に退院困難な要因の患者を抽出し、患者、家族と面談し退院後の生活について意向を確認しMSWや多職種とカンファレンスにてサービスの調整や支援を行っている。

業務：(1)入院前、または入院時から患者・ご家族の意向を確認し退院支援、調整を行っている。

(2)病棟の退院支援看護師・プライマリーナースと情報共有し患者の退院調整を行っている。

(3)MSWと連携を図りながら、退院困難事例を抽出し適切なサービスを検討し、外部の連携機関と連絡を密にし、退院調整を行っている。

(4)教育担当看護師長と協同し近隣医療福祉介護施設などの職員を対象に要望のある研修会を企画・開催し、職員への最新情報の発信と知識・技術の向上を支援している。

教育：(1)退院支援、退院調整に関する知識と技術向上に向けた学習会への参加

(2)研修参加

「患者の意思を尊重した意思決定支援のための相談員研修会」へ看護師2名、MSW2名参加

「令和元年度医療社会事業専門員等研修」へMSW1名参加

「日本看護協会 ファーストレベル教育課程」1名修了

(3)雑誌投稿 「採用時研修における3年目看護師の語りの実践と効果」看護人材育成,第16巻  
第1号,P2~11,2019.4・5月号,2019

# 危機管理センター

---

# 危機管理センター－医療安全管理室－

適切な医療安全管理を推進し、安全な医療の提供を資する目的で組織横断的に院内の安全管理を担っている。インシデントや警鐘事例の分析、対策検討や医療安全研修等の周知、啓発活動を通して、職員の医療安全に対する意識向上、医療安全風土の醸成をはかっている。

## 1. インシデント報告件数

2017-2018 年度	2018-2019 年度	2019-2020 年度
923 件	720 件	676 件

## 2. インシデントレベル別件数

患者影響レベル	0	1	2	3a	3b	4 以上
2017-2018 年度	106	476	298	33	10	0
2018-2019 年度	81	360	246	24	9	0
2019-2020 年度	144	264	233	29	5	1※1

※1：自歯誤飲による急変事例：レベル評価困難事例

レベル 3b 事例：BiPAP 気管カニューレ接続外れによる SpO2 低下、他動によるものと思われる右前腕尺骨骨折

胸水穿刺による気胸発生、転倒による左大腿骨頸部骨折、転倒による左大腿骨転子下骨折

## 3. 主なインシデント内容

	与薬	転倒転落	検査関連	療養上世話	皮膚損傷	呼吸器
2017-2018 年度	171	252	59	27	47	25
2018-2019 年度	140	169	46	19	23	71
2019-2020 年度	117	126	70	26	41	58

## 4. 医療安全研修

① 2019 年 10 月 個人情報保護に関する研修（参加率 97.5%）

② 2020 年 1 月 医療ガス研修（参加率 97.0%）

## 5. NHO 医療安全相互チェック

① 2019 年 10 月 25 日（チェック病院：沖縄病院、オブザーバー病院；熊本南病院）

## 6. 医療安全対策地域連携における医療安全相互評価

① 2019 年 10 月 1 日 諫早記念病院（加算 2）

② 2019 年 11 月 29 日 当院

◎ 2019年12月13日 大村市民病院

## 7. 今年度検討を行ったこと、新規導入したことなど

- ・胸部 XP 見落とし事例：画像・レポートの管理
- ・自殺企図事例：全室窓のセキュリティ対策
- ・抗凝固薬管理：【Hep】、【Ant】、【Ant 中止中】3種類のマグネットをヘッドボードに明示化
- ・8病棟呼吸器管理の徹底：呼吸器チェック表の修正、2時間おきチェックルール
- ・医療安全マニュアルの改訂：管理事項はすべて改訂。患者誤認と静脈血栓塞栓改訂中。
- ・事故防止マニュアルの改訂：内服
- ・災害に備えた院内の活動への参加

\*2019年11月に火災・災害対策検討委員会が発足。3月11日、職員48名参加にて水害を想定した8病棟避難訓練が実施された。

\*2019年避難入院ワーキンググループが発足。在宅療養中の神経難病患者緊急避難についての検討を継続した。

## 8. 研修参加

- ・令和元年度九州グループ医療安全管理研修（40時間）、九州グループ個人情報保護研修
- ・令和元年度NHO情報セキュリティ研修（実務担当者向け）
- ・令和元年度九州厚生局医療安全に関するワークショップ

# 危機管理センター — 感染管理 —

感染対策室は、医療行為に関連した病院感染症の予防と制圧および医療従事者の職業上の安全と健康を担当する部門であり、病院内のすべての領域に関与して横断的な活動を展開する役割を担っている。

## 1. 実績

### ①入院患者の感染対策

	H29 年度	H30 年度	令和元年度 (3 月末)
耐性菌介入数	554	133	47
血培陽性介入数	8	157 (陽性件数)	65 (陽性件数)
上記以外のコンサルテーション・介入数	109	100	45
職員の診察・相談数			

### ②施設基準など取得状況

感染防止対策加算 1 (400 点)、地域連携加算 (100 点) の計 500 点

※平成 30 年度より診療報酬改定により感染防止対策加算 1 (390 点+地域連携加算 (100 点) 490 点へ変更

	H29 年度	H30 年度	令和元年度 (2020 年 3 月末現在)
新入院患者数	3.172	2.501	2.048
加算計 500 点 (490 点)	1.586.000 点	1.225.490 点	1.003.520 点

## 2. 感染対策に関する教育・研修

- ①平成 31 年度新採用者教育 ②感染管理に関する院内教育 (8 病棟療養介助員 看護補助者研修)
- ③委託業者の教育 (栄養管理室 グリッターバグを使用した手洗い教育)
- ④手指衛生の啓発 各月の手指消毒薬使用量を集計し、各部署に結果をフィードバック

### 3. 病院職員の健康管理

①新採用者・異動者の4種価抗体チェック及びワクチン接種、B型肝炎抗体検査及びワクチン接種

②季節性インフルエンザワクチン接種

### 4. 感染発生の動向監査

1回/週、ICTメンバーが院内巡視活動を実施し、感染対策実施の確認と指導を行っている。手術部位感染サーベイランス（JANIS 参加）

### 5. 抗菌薬の適正使用

特定抗菌薬の届出制を行い薬剤師が中心となり、適正使用に対する相談と2週間以上の長期投与患者がないか検討した。

### 6. 加算施設との合同カンファレンス

感染防止対策加算1申請に伴い、地域連携加算施設（大村市民病院）と合同カンファレンスを実施した。

また加算2連携施設（長崎病院）と手指消毒使用量や薬剤耐性菌検出状況、抗菌薬の適正使用状況について4回/年、合同カンファレンスを実施した。

### 7. 感染対策のための職員研修

開催日	テーマ	講師	受講率
2019年5月16日	インフルエンザ対策報告 風疹について	ICD	99.7%
2019年11月12日	インフルエンザ対策について	ICD	99%

### 8. 地域への活動 地域連携 感染対策研修会の実施

年に2回 感染対策の基本（①食中毒について②冬季流行感染症）について講義した。

COVID-19対策として東彼3町の介護施設に対して川棚町公会堂で出張講座を開催した。

# 医療機器管理室

## 臨床工学技士業務、実施件数報告

技士数は2名。

主な業務：

医療機器管理室内の業務（医療機器の管理・点検など）、血液浄化業務、手術室（術中モニタリング）、ペーサーメーカー関連業務、使用中の人工呼吸器管理、心カテ立会い、勉強会開催

### ① 医療機器管理（貸出・返却・点検）

・貸出し前点検、定期点検、修理（メーカー手配合む）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
保守点検 修理業務	貸出	78	92	76	82	62	53	99	62	85	76	59	63	887
		111	90	77	77	75	65	75	89	87	77	63	68	954
	返却	89	81	90	63	63	67	68	75	88	69	57	85	895
		93	91	74	91	80	77	84	92	79	83	63	73	980
	貸出前点検	89	81	0	59	68	66	73	75	92	69	59	78	809
		96	97	68	90	76	77	77	87	73	85	64	72	962
	定期点検	19	20	22	4	2	0	2	2	16	16	4	18	125
		8	27	10	6	5	7	10	6	23	13	6	18	139
	修理	0	2	0	3	1	0	0	0	0	1	0	1	8
		1	2	1	1	0	3	0	1	1	0	0	1	11

※赤文字：2019年度、灰色背景：2018年度

### ② 手術室

・術中モニタリング（SEP、MEP、ABR、AMR、VEP）

・DBS「リードポイント」操作、「Nビジョン」操作

・VNS（迷走神経刺激植込み）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
術中 モニタリング	SEP/MEP	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	K930:3,130点	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ABR/AMR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
DBS	DBS(新規)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	DBS(IPG交換)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1	0	0	2	1	1	2	4	1	1	3	3	19
VNS	新規植込み	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	4
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	IPG交換	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
ITB	リフィル	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	5
		1	1	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	7

※赤文字：2019年度、灰色背景：2018年度

③ 血液浄化業務 (アフレス業務)

免疫吸着、単純血漿交換、CHDF、PMX、腹水濾過濃縮再静注法

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
血液浄化業務	免疫吸着	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	5
	J039:4,200点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純血漿交換	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
	J039:4,200点	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
	CHDF(日数)	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
	J038-2:1,990点	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	8
	PMX	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	J041:2,000点	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
腹水濾過濃縮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
K635:4,160点	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	

※赤文字：2019年度、灰色背景：2018年度

④ 人工呼吸器管理業務

- ・ 回路交換後の確認(8病棟は2回/週)
- ・ 人工呼吸器の設定や動作確認 (40~50件/日)
- ・ トラブル対応

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
人工呼吸器管理業務	ラウンド	734	763	854	902	981	910	977	556	429	345	442	633	8526
		772	939	939	804	940	747	766	579	620	621	727	665	9119

※赤文字：2019年度、灰色背景：2018年度

⑤ ペースメーカー関連業務

- ・ 植込み、交換時の立会い(プログラマー操作等)
- ・ 外来のフォローアップ (5~6人/週) (毎週月曜 13:00~15:00)
- ・ 他科手術時設定変更など

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
ペースメーカー関連業務	外来	21	16	20	20	15	13	18	16	18	10	14	6	187
	フォローアップ	28	19	22	8	19	13	16	24	19	15	18	20	221
	入替術後チェック	12	7	6	4	2	1	5	0	0	0	2	3	42
	手術立会い	1	3	0	5	2	2	3	3	5	5	0	0	29
		0	2	0	2	1	2	2	0	0	1	2	3	15
		1	2	2	1	3	0	1	3	2	1	0	0	16

※赤文字：2019年度、灰色背景：2018年度

⑥ 冠動脈カテーテル検査間接介助 (CAG)

⑦ 冠動脈インターベンション間接介助 (PCI)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
冠動脈カテーテル検査間接介助(CAG)		4	6	3	2	8	4	2	6	4	4	2	2	47
		1	9	5	4	4	7	4	3	9	8	3	3	60
冠動脈インターベンション間接介助(PCI)		0	1	3	1	0	0	1	1	1	0	0	0	8
		0	1	1	2	1	1	2	1	0	2	0	0	11

※赤文字：2019年度、灰色背景：2018年度

⑧ 医療機器安全使用研修会

・勉強会の実施

2019 年度の実施件数 60 回（人工呼吸器関係 38 回、その他 22 回）

日時	内容	参加者数	対象者参加率
2019 年 4 月 11、12、17 日	NPPV 用マスク勉強会	27	82%(5F 看護師対象)
2019 年 4 月 16、26 日 5 月 9、14、17 日 6 月 10 日	人工呼吸器モナールのアラーム対応について	27	64%(8 病棟看護師対象)
2019 年 4 月 25 日	ペースメーカー植込み時おける注意点について	7	100%(手術室看護師対象)
2019 年 5 月 8 日	人工呼吸器トリロジーO2 について	3	100%(療育指導室)
2019 年 6 月 17、18、21 日	人工呼吸器パラパックについて	23	56%(8 病棟看護師対象)
2019 年 8 月 7 日	ACT について	7	23%(3F 看護師対象)
2019 年 9 月 25 日	人工呼吸器モナールについて	3	100%(療育指導室)
2019 年 11 月 12、13、14、 15、19、20、22、28 日	バッグバルブマスクの取り扱いについて	30	100%(5F 看護師対象)
2019 年 10 月 21 日	人工呼吸器について	6	100%(5F 新人看護師対象)
2019 年 12 月 9、25 日 2020 年 1 月 10 日	ハイフローセラピーについて	22	41%(3F・6F 看護師対象)
2019 年 12 月 9(2 回)、10(3 回)、11(4 回)、12(4 回)、13(4 回)、18、 23、27 日	輸液ポンプ OT-808 取り扱いについて	120	65%(全看護師対象)

2019年 4月1、11、12日 5月13日 6月3日 8月1日 9月2、17日 10月1日 12月2日 2020年 2月3日 3月3日	人工呼吸器取り扱いについて	24	95%(8病棟看護師対象)
----------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------	----	---------------

### 資格等について

#### 1) 所有資格・認定

認定・資格	取得人数	認定学会名	取得(更新)日	期限
臨床 ME 専門認定士	1	日本生体医工学会 日本医療機器学会	2012年1月 (2017年1月)	2021年12月
医療機器情報コミュニケ-ター	1	日本医療機器学会	2012年4月 (2017年10月)	2022年9月
日本アフェシス学会認定技士	1	日本アフェシス学会	2015年1月 (2020年1月)	2024年12月
3学会合同呼吸療法認定士	1	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会	2013年1月 (2018年1月)	2022年12月
第1種 ME 技術者	1	日本生体医工学会	2011年11月	なし
第2種 ME 技術者	2	日本生体医工学会	2007年9月 2005年9月	なし
BLS ヘルスケアプロバイダ-	1	長崎 ACLS トレーニングサイト	2018年3月	2020年3月

#### 2) 所属学会

所属学会	役職
日本アフェシス学会	評議員 (2021年総会まで)
日本臨床工学技士会	
日本心血管インターベンション治療学会	

# 事務部

## ①令和1年度 病院行事

	一般行事	その他
4月	辞令交付・オリエンテーション(4/2) 看護師就職説明会 歓迎会(院内)	労働基準監督署宿直状況調査(4/12) 長崎市議会議員及び市町村選挙
5月	看護師就職説明会	永年勤続表彰
6月	職員健康診断(一般・特殊)	業績評価研修
7月	定期健康診断 看護職員採用試験(7/27)	参議院議員通常選挙 事務部長協議会
8月		「院長より」計8回 生涯教育講座①「ペイハラ患者・家族への対応策—その倫理と実践—」
9月	地域医療支援病院運営委員会 監査法人期中監査(9/24,9/25)	
10月	合同慰霊祭(10/7) 地域医療支援病院運営委員会	生涯教育講座②「熊本地震の経験を踏まえた神経難病患者の災害対応」 生涯教育講座③「接遇は愛、そして生き方そのもの。そこに、医療ヒューマニズムを考えて」 消防訓練(10/31) ストレスチェック 個別指導(九州厚生局)10/3 患者満足度調査
11月	国立病院総合医学会(名古屋)(11/8~9) 全国院長・副院長・看護部長・事務部長協議会等	生涯教育講座④「グローバルスタンダードの治療・診断薬を川棚から発信する」 新型インフルエンザ発生時における患者搬送訓練

	幹部看護師任用候補者選考試験	健康フェスタ(11/30) 個人情報保護伝達
12月	地域医療支援病院運営委員会 合同忘年会(12/5 ウォーターマークホテル)	業績評価研修
1月	新年懇親パーティー	保健所立ち入り検査(1/30) 認可外保育施設立入検査(1/15) 生涯教育講座⑤「ALSと共に生きた四半世紀を振り返って」 生涯教育講座⑥「ふるさとを未来に引き継ぐジオパーク～なぜジオパークが必要なのか～」 Windows7 端末更新
2月	地域医療支援病院運営委員会 部門ヒアリング	電気設備点検(2/29) 情報セキュリティインシデント訓練
3月	特殊健康診断 退職者辞令交付 ※消防訓練中止 ※合同送別会中止 ※ボランティア感謝の集い中止	8病棟避難訓練(3/11) 36 協定協議 停電作業 QC 活動報告会

2019年度 医療機器等契約状況一覧							
医療機器等の区分	医療機器等の名称	メーカー	規格	調達先	数量	納品年月	更新 新規 増設
人工呼吸器(一般)	人工呼吸器	フィリップス	BiPAP Synchrony2	正晃(株)	5	R2年1月	新規
顕微鏡(一般)	システム生物顕微鏡	オリンパス	BX43	アイティーアイ(株)	2	R2年1月	更新
	合計				7		
2019年度 IT契約状況一覧							
区分	名称		規格	調達先	数量	整備年月	更新 新規 増設
電子カルテシステム	電子カルテシステム		HOPE EGMAIN-GX	富士通(株)	1	H31年9月	更新
電子カルテシステム	SS-MIX2モジュール			富士通(株)	1	H31年9月	新規
	合計				2		